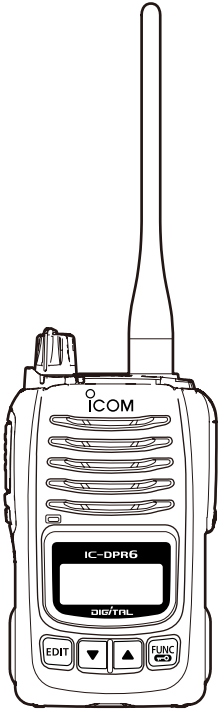
取扱説明書

携帯型デジタル簡易無線機

IC-DPR6

この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。
無線局の登録申請手続きをしないで運用されますと、不法無線局となり1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなりますのでご注意ください。

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた登録局対応の携帯型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

チャンネルについて

◎CH01～CH14、CH16～CH30 :陸上用チャンネル
◎CH15(呼出CH)★1. :呼出用チャンネル
◎CH S1～CH S5★2. :上空用チャンネル

★1.一時的な呼び出しをするときに使用します。(☞Pvi、P9)
多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている陸上用チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。
★2.上空用チャンネルでは送信できません。
出荷時、上空用チャンネルの使用は、「OFF」(☞P44)に設定されています。

使用後はリサイクルへ

Li-ion

この製品は充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

音声圧縮(符号化)方式について

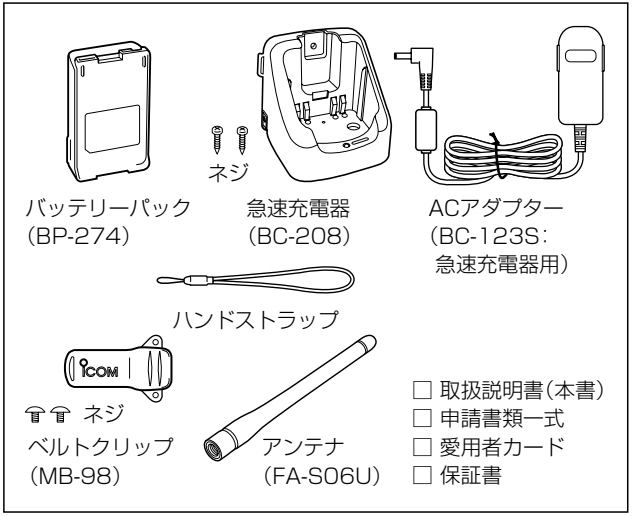
本製品は、米国DVS社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Evcitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。
本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
本製品のフォントは、モリサワのフォントを採用しています。

付属品について



※付属品の一部は、別売品(☞9章)としてもご用意しています。

本製品の概要について

◎本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
◎IP67(耐塵形★1.と防浸形★2.)相当の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック、アンテナ装着時に限る)
◎デジタル無線機の特長として、高音質で通話ができます。
◎チャンネル番号音声案内機能を使用すると、通話チャンネルを切り替えたとき、選択したチャンネル番号を音声で読み上げます。
◎ポケットビープメロディー機能を使用すると、ポケットビープの代わりとして、メロディーでお知らせできます。
◎プライベートチャンネルスキャン機能により、指定した2つの通話チャンネルの信号を交互に監視できます。
◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。★3.

★ 1. バッテリーパック、アンテナを正しく装着した状態で、試験用粉塵を 1m^3 あたり 2kg の割合で浮遊させた中に 8 時間放置したのちに取り出して、無線機の内部に粉塵の浸入がないこと。
★ 2. バッテリーパック、アンテナを正しく装着した状態で、水深 1m の静水 (常温の水道水) に静かに沈め、30 分間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。
★ 3. AMBE+2™ 方式を採用している機種に対応しています。

はじめに

防塵/防水性能について

バッテリーパックとアンテナを本製品に装着することで、IP67相当の防塵/防水性能があります。
次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックやアンテナ、防水形スピーカーマイクを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液（洗剤）等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 「別売品の防水性能について」に記載する別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷
- 使用温度範囲外で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、アンテナ、別売品を接続するコネクター間に微細なゴミ（糸くず、毛髪、砂など）が挟まっているとき

別売品の防水性能について

バッテリーパック（BP-274）、アンテナ（FA-S04U/FA-S05U/FA-S06U/FA-S07U）、防水形スピーカーマイク（HM-159SJ/HM-172/HM-183SJ）を無線機本体に装着することで、IP67相当の防水性能になります。

※ 接話タイピン型マイクロホン（HM-163）は、IPX7相当の防水性能がありますが、マイクロホン部は防水構造ではありません。

※ VOXユニット（VS-2SJ）は、本製品と接続する場合でも、IPX4相当の防水性能になります。

※ 上記以外の別売品（☞9章）については、防水構造になっていませんので、ご注意ください。

電波法上のご注意

◎ 無線局の運用に当たっては、電波利用料を納付する必要があります。（納入告知書により、納付期限内に納付）

◎ 登録局の有効期限は、登録日から数えて5年間です。
再登録の申請は、免許の切れる3ヵ月前から1ヵ月前のあいだに手続きをしてください。

電波法上のご注意(つづき)

◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
ご自分で分解や改造をしないでください。

◎本製品は、アンテナを含めて技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
そのため、ご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。
同梱の「IC-DPR6用アンテナについて」を参考にしてください。
技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられる場合がありますので、ご注意ください。

◎他局の通信妨害や、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。

◎本製品は、日本国内における陸上で運用する無線機です。
上空、および海上での運用はできませんのでご注意ください。
上空及び海上で運用されますと、無線局登録状の範囲を超えた運用となり、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなります。

取り扱い上のご注意

◎アンテナを持って製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。

◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。

◎雨の中や、水滴が付着したまま、またはぬれた手でバッテリーパックや防水形スピーカーマイク、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。

◎水や湯を水道の蛇口から直接当てないでください。

◎無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、定期的にお手入れをしてください。

◎磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。

◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。

◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

はじめに

自動車運転時のご注意

◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
◎本製品をハイブリッドカーでご使用になる場合、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。
◎安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、真水で洗い流してください。
このとき、バッテリーパックは、無線機本体から絶対にはずさないでください。
洗い流したあとは、水分をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。

個人情報の取り扱いについて

弊社が個人情報を利用する場合、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内で利用し、範囲を超えての利用はいたしません。
弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ をご覧ください。

ユーザー登録について

ユーザー登録は、バージョンアップ･サービスなどをご提供するときに必要になります。
付属の愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ず投函してください。
また、弊社ホームページから登録される場合は、インターネットから、http://www.icom.co.jp/ にアクセスいただき、ユーザー登録用フォーム(サポート情報→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

基本的な運用手順について

各手順の操作方法については、本書3章をご覧ください。

【通話チャンネルが決まっている場合】

①相手と同じ通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に合わせます。

②**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけ、**[PTT(送信)]**スイッチをはなします。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

①「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。

※空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)を事前に確認しておきます。

②**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

③通話チャンネルを通話相手に伝えて、**[PTT(送信)]**スイッチをはなします。

④通話相手に伝えた通話チャンネルに切り替えます。

【通話チャンネルに設定できる便利な機能】

◎通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)には、ユーザーコード★(☞P12)、および秘話キー★(☞P16)を設定できます。
★同じ設定の相手とだけ通話できます。

◎プライベートチャンネル機能(☞P30)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の切り替えに便利です。

◎プライベートチャンネルスキャン機能(☞P30)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の通信を交互に受信(監視)できます。

もくじ

はじめに ―――――――――――――――― i

チャンネルについて …… i
音声圧縮(符号化)方式について …… i
登録商標/著作権について …… i
付属品について …… ii
本製品の概要について …… ii
防塵/防水性能について …… iii
別売品の防水性能について …… iii
電波法上のご注意 …… iii
取り扱い上のご注意 …… iv
自動車運転時のご注意 …… v
海水が付着したときは？ …… v
個人情報の取り扱いについて …… v
ユーザー登録について …… v
基本的な運用手順について …… vi

安全上のご注意 ―――――――――――― x

■ 無線機本体について …… x
■ バッテリーパックについて …… xii
■ 充電器について …… xiv

1.ご使用の前に ―――――――――――― 1

■ 付属品の取り付けかた …… 1
■ 充電のしかた …… 2
■ 電池の残量表示について …… 3
■ 電池の残量警告音について …… 3
■ 正しい充電のために …… 3
■ 充電時間と使用時間の目安 …… 4

2.各部の名称と機能 ―――――――――― 5

■ 表示部 …… 5
■ 前面部/側面部 …… 6

3.はじめての通話 ―――――――――――― 8

■ 通話するときのアドバイス …… 11

4.簡単なグループ通話のしかた ――― 12

■ ユーザーコードの設定方法を変更するには …… 12
■ ユーザーコードを使用して通話するには …… 13

5.盗聴防止の設定をするには ——— 16

■ 秘話キーの設定方法を変更するには …… 16
■ 秘話キーを使用して通話するには …… 17

6.個別呼び出し機能による通話 ——— 21

■ 呼び出しかたの種類について …… 21
■ 個別呼び出し機能を設定するには …… 22
■ 個別呼び出し機能で通話するには …… 24

7.そのほかの機能について ——— 27

■ ロック機能 …… 27
■ モニター機能 …… 27
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー) …… 28
■ プライベートチャンネル機能 …… 30
■ プライベートチャンネルスキャン機能 …… 30
■ 送信出力の切り替え …… 31
■ ポケットビープ機能 …… 32
■ ポケットビープメロディー機能 …… 32
■ 受信電波強度通知機能 …… 32
■ 着信履歴機能 …… 33

8.各種機能の設定 ——— 34

■ 設定項目一覧 …… 34
■ セットモードに移行するには …… 35
■ 詳細セットモードに移行するには …… 35
■ 設定のしかた …… 36
■ 設定項目について …… 36

9.別売品とその使いかた ——— 46

■ 別売品一覧表 …… 46
■ BC-161 #02(卓上急速充電器):充電のしかた …… 48
■ BC-161 #02の連結充電について …… 48
■ BC-161 #02のヒューズ交換について …… 49
■ BC-121NA(6連急速充電器):充電のしかた …… 49
■ MB-86(回転式ベルトクリップ) …… 50
■ 別売品を接続するには …… 51
■ MB-97(ベルトクリップ) …… 51
■ HM-109/HM-163(接話タイピン型マイクロホン) …… 51
■ AD-52(イヤホンジャックアダプター) …… 51
■ OPC-636/
OPC-637(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル) …… 52
■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)と
EH-11(イヤーパッド型スピーカー)の組み立て …… 52

もくじ

10.ご参考に ―――――――――――― 53

■ 日常のお手入れと点検について …… 53
■ 初期状態に戻す(リセットする)には …… 53
■ 故障かな?と思ったら …… 54
■ 従来製品との相互使用について …… 55
■ アフターサービスについて …… 56

簡単ご利用ガイド ―――――――― 57

11.定格 ―――――――――――― 59

■ 無線機本体 …… 59
■ BC-208急速充電器(付属品) …… 59
■ BC-161 #02卓上急速充電器(別売品) …… 59

さくいん ―――――――――――― 60

**安全にお使いいただくために、
必ずお読みください。**

◎ **使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。**
◎ **次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。**
◎ **お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。**

⚠危険	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
⚠警告	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠注意	これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】
お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■ 無線機本体について

⚠危険

引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。

⚠警告

◎ **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
◎ **電子機器の近く（特に医療機器のある病院内）では絶対に使用しないでください。**
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

安全上のご注意

■ 無線機本体について（つづき）

⚠警告

◎ **アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。**
本人や他人に当たって、けがや故障、破損の原因になります。

◎ **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

◎ **製品の分解や改造は、絶対にしないでください。**
また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎ **万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常がある場合は、使用しないでください。**
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

◎ **インバーター内蔵の電子機器やLED照明器具の周辺で使用しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎ **アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。**
変形や破損の原因になることがあります。

◎ **針金などの細い棒でマイクロホン部やスピーカー部の穴に触れないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎ **無線機をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。**
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となることがあります。

◎ **直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎ **指定以外の別売品を使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎ **テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎ **−20℃～+60℃以外の環境では使用しないでください。**
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。**
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

■ バッテリーパックについて

⚠危険

◎ **火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。**
バッテリーパックの性能や寿命が低下、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◎ **火の中に投入したり、加熱したりしないでください。**
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

◎ **コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◆ バッテリーパックをご使用の際に、異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

◎ **下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。**

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
  失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

安全上のご注意

■ バッテリーパックについて(つづき)

⚠警告

◎ **使用中や充電中、または保管中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。**
使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎ **赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
感電やけがの原因になります。

◎ **電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ **指定の充電時間以上、充電しないでください。**
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎ **指定の充電時間を超えても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ **バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。**
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎ **テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。**
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎ **バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。**
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

⚠注意

◎ **下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。**

- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
  長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、(残量あり)の状態を表示(☞P3)するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
  BC-208(付属品:急速充電器) :0～40℃
  BC-161 #02(別売品:卓上急速充電器):0～40℃
  BC-121NA(別売品:6連急速充電器) :10～40℃
- 以下の温度範囲以外の環境で使用しないでください。
  BP-274(付属品) :−20～+60℃
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

⚠注意

◎ **下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。**

長期間使用しないときは、バッテリーパックを無線機から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。

約1ヵ月：−20〜+40℃
約3ヵ月：−20〜+35℃
約1年　：−20〜+25℃

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。**

ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
乾いたやわらかい布でふいてください。

■ 充電器について

⚠危険

◎ **下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。**

- 充電器（付属品：BC-208）とACアダプター（付属品：BC-123S）は、本製品の充電以外に使用しないでください。
- 充電器（別売品：BC-161 #02/BC-121NA）には、弊社指定以外のACアダプターを使用しないでください。
- 弊社指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
  BP-274（付属品）専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。
  また、ご自分で修理しないでください。

⚠警告

◎ **下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。**

- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- BC-161 #02（別売品）を連結して充電できるのは、最大4台までです。
  それ以上の台数を連結して充電しないでください。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
  また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。

安全上のご注意

■ 充電器について（つづき）

⚠警告

◎ 下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 電源ケーブルや接続ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
  すぐにACコンセントから電源ケーブルを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

◎ 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

◎ 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

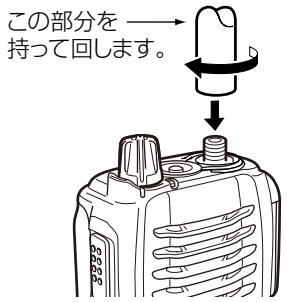
◎ 下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
  BC-208（付属品：急速充電器）　　：0～40℃
  BC-161 #02（別売品：卓上急速充電器）：0～40℃
  BC-121NA（別売品：6連急速充電器）　：10～40℃
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源ケーブルを抜いてください。

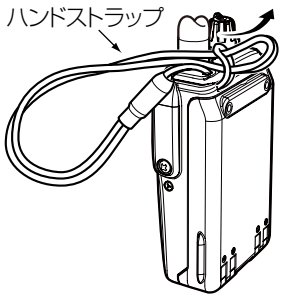
◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

■ 付属品の取り付けかた

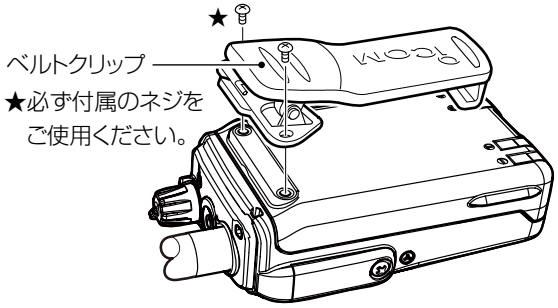
【アンテナ】



【ハンドストラップ】



【ベルトクリップ】



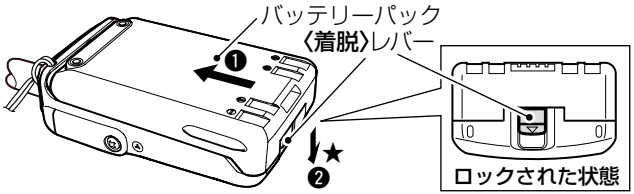
★ ネジの長さは、ベルトクリップの種類によって異なります。
取り付けに使用するネジは、ベルトクリップに付属する以外のものを絶対に使用しないでください。

【バッテリーパック】

バッテリーパックを本体に密着させながら、**「カチッ」**と音がするまで[❶]の方向にスライドさせます。なお、本製品には、バッテリーパックとの接点部に防水用パッキンを取り付けています。
そのため、バッテリーパックを取り付けるときには、**「カチッ」**と音が鳴ってから、さらに[❶]の方向に押し込んでください。

※ 取り付けたとき、バッテリーパックが無線機底面にある〈着脱〉レバーでロックされていることを確認します。

★ 取りはずすときは、**〈着脱〉**レバーを[❷]の方向に押し下げるとロックがはずれます。



⚠警告

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。

⚠注意

次のことを守らないと、指や爪をいためるおそれがあります。

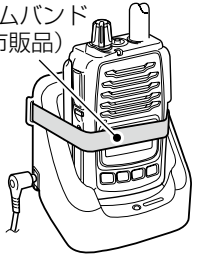
バッテリーパックを取りはずすとき、**〈着脱〉**レバーの操作は、バッテリーパックを[❶]の方向に軽く押し込んで、**〈着脱〉**レバーが軽く動く状態になってから、[❷]の方向に操作してください。

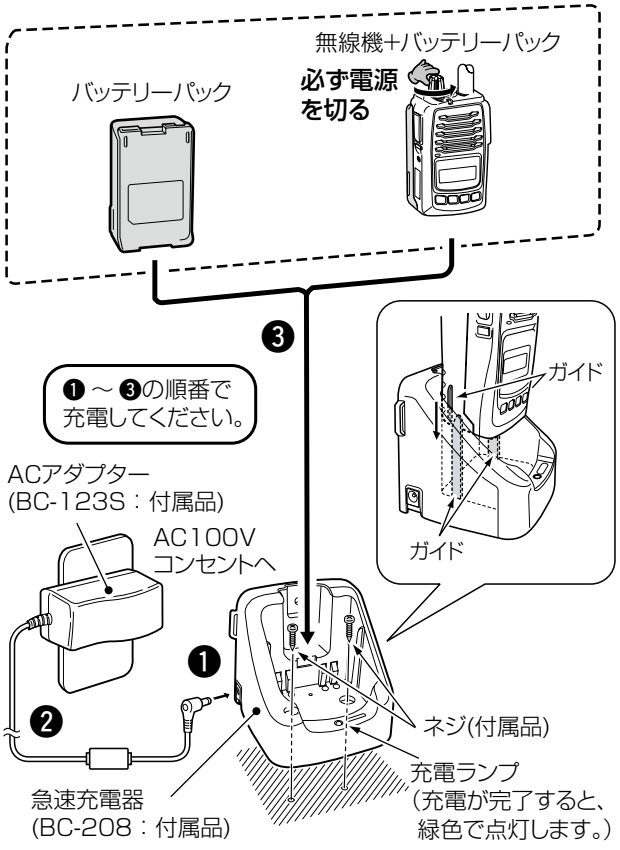
■ 充電のしかた

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。

◎充電中は、無線機の電源を切ってください。
◎充電が完了した状態で放置していても、バッテリーパックの電圧が低下したときは、自動的に再充電を開始します。
◎充電中、充電ランプは橙色に点灯します。
充電が完了すると緑色に点灯します。
◎ベルトクリップを無線機に付けた状態で充電できます。
※LC-164T/LC-166T(別売品:ハードケースS/ハードケースL)を装着した状態では充電できません。

【充電器の使用例】
右図のように、市販のゴムバンドなどで固定すると、無線機が充電器からはずれるのを防止できます。





⚠危険

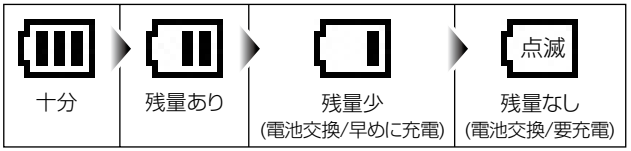
◎充電するときは、必ず本製品に付属、または「別売品一覧表」(☞P46)に記載の充電器をご使用ください。
◎指定(BP-274)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
◎「安全上のご注意」(☞Px ～Pxv)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

■ 電池の残量表示について

電池の残量が少なくなると、電池マークが点滅し、極端に少なくなると「電源 OFF」を点滅表示して、電源が切れます。

※交換時期になりましたら、バッテリーパックは充電し、アルカリ電池ケース(BP-221)の場合は、新しいアルカリ電池と交換してください。

【電池残量の意味】



■ 電池の残量警告音について

残量が点滅表示になると、残量警告音が**「ピーピーピー」**と、約30秒ごとに鳴ります。

警告音が鳴り出したら、すぐに充電してください。

※ 点滅表示の状態で使用をつづけると、残量警告音が**「ピーピピピ･･･」**と2秒間鳴りつづけたあと、無線機の電源が自動的に切れます。

【電池残量が極端に少ないとき】

■ 正しい充電のために

◎バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後に再充電しないでください。

◎満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、残量表示が(残量あり)の状態になるまで使用し、無線機からバッテリーパックを取りはずして保管してください。

◎極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
充電器は、次の環境でご使用ください。
BC-208(付属品:急速充電器) :0～40℃
BC-161 #02(別売品:卓上急速充電器):0～40℃
BC-121NA(別売品:6連急速充電器) :10～40℃

◎バッテリーパックは消耗品ですから、充電を繰り返すと運用時間が少しずつ短くなります。
運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパック(別売品)をご購入ください。

◎充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、定期的に乾いたやわらかい布でふいてください。

■ 充電時間と使用時間の目安

ご使用になるバッテリーパックや充電器によって、充電時間や使用できる時間が異なります。

名称 / 定格項目			BP-274	
電池の種類			リチウムイオン	
電池の容量			1800mAh min. / 1900mAh typ.	
出力電圧			7.4V	
寸法 (幅×高さ×奥行)			56×91×14.0 【条件】突起物は含まず/【単位】mm	
使用時間	パワーセーブ		ON	OFF
	送信出力	1W	約18時間	約14時間
		5W	約12時間	約10時間
	【条件】送信5、受信5、待ち受け受信90の割合で繰り返し運用			
充電時間			◎付属品のBC-208を使用時:約3時間	
			◎別売品のBC-161 #02、BC-121NAを使用時:約2.5時間	

※ BP-274(バッテリーパック)とBC-208(急速充電器)が本製品に付属しています。
※ バッテリーパックとアンテナを装着することで、無線機本体の防水性能に適合します。
※ 出荷時、パワーセーブ機能(☞P43)は、「OFF」に設定されています。
個別呼び出し機能(☞6章)との併用は、できません。
※ バッテリーパックに異常があると思われたときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

【アルカリ電池ケースをご使用の場合】 (別売品:BP-221)

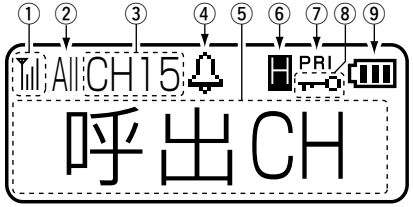
市販のアルカリ電池をBP-221に入れて使用した場合の使用時間の目安です。

なお、BP-221の使用方法については、BP-221に付属の取扱説明書をご覧ください。

使用時間	パワーセーブ		ON	OFF
	送信出力	1W	約6時間	約5時間
		5W	約1時間	約50分
	【条件】送信5、受信5、待ち受け受信90の割合で繰り返し運用			

※ 出荷時、パワーセーブ機能(☞P43)は、「OFF」に設定されています。
個別呼び出し機能(☞6章)との併用はできません。
※ 使用条件やアルカリ電池の種類(製造元など)により、使用時間が大きく異なることがあります。
また、アルカリ電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

■ 表示部



①電波状態表示

受信している電波の強度を、右記の３段階(目安)で表示します。

※「⍑」は、電波が届いていないときでも表示されています。

②個別呼び出し(All/メ)モード表示

個別呼び出し機能が設定(☞P31)されているとき表示します。

All:全局呼び出しとなる項目が表示されているとき

メ:相手からのグループ呼び出しを受けたとき、着信を許可するグループ番号が表示されているとき

③操作状態の表示

通話チャンネル表示や音量表示以外の内容を選択したとき、通話チャンネルを③の部分に表示します。

※ セットモードや詳細セットモード(☞8章)のときは、③の部分に「SET」、または「FUNC」などを表示します。
「FUNC」は、個別呼び出し機能を「ON」に選択したとき、表示される設定項目を示しています。

④🔔(ベル)

通話相手から個別呼び出し(着信)を受けたとき点滅します。
ポケットビープ機能(☞P32)が設定されているときは、表示します。

⑤[相手局番号/設定内容]表示

音量(0～32)、通話チャンネル(☞P9)、ユーザーコード(☞P12)、秘話キー(☞P16)、セットモード(☞P35)、詳細セットモード(☞P35)で選択した設定項目や設定内容などを表示します。

⑥[H / L (5W/1W:送信出力)/ R (受信専用)]表示

各通話チャンネルの送信出力(High/Low)、または上空用チャンネル(受信専用)の設定状態を表示します。

H:5W(High)設定時に点灯
L:1W(Low)設定時に点灯
R:上空用チャンネル(S1～S5)選択時に点灯

⑦[PRI (プライベートチャンネルスキャン)]表示

プライベートチャンネルスキャン(☞P30)中に表示します。

⑧[🔑(ロック機能)]表示

ロック機能(☞P27)が動作中のとき表示します。

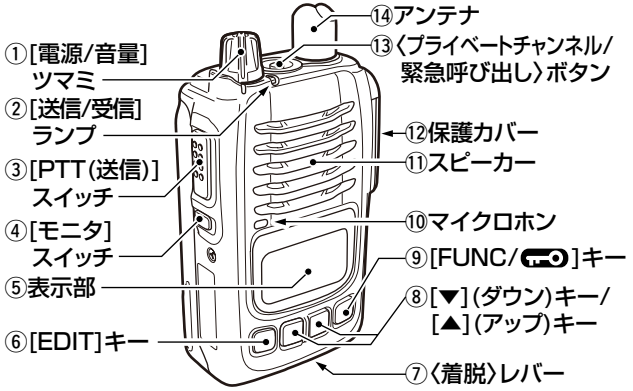
⑨[(電池残量)]表示

電池残量を4段階で表示します。

※ 各段階の詳細な説明は、3ページをご覧ください。

2 各部の名称と機能

■ 前面部/側面部



① [電源/音量]ツマミ

電源の「ON」/「OFF」と音量の調整をします。

※ 右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。

② [送信/受信]ランプ

[PTT]スイッチを押しているあいだ(送信中)は赤色、電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。

③ [PTT(送信)]スイッチ

[PTT(送信)]スイッチを押すと送信状態、はなすと受信状態になります。

※ 電波法により、「連続送信(通話状態)」が5分を超えると、通話を自動的に切断します。(☞P11)

④ [モニタ]スイッチ

押しているあいだモニター機能(☞P27)が動作します。

※ 音を聞きながら音量を調整するとき、ユーザーコード(☞P12)や秘話機能(☞P16)を使用しない他局の通話を聞くときにも使用します。

※ プライベートチャンネルスキャン機能(☞P30)が設定されている場合、モニター機能は使用できません。
長く(約1秒)押すと、プライベートチャンネルスキャンを開始します。

⑤ 表示部

無線機の使用状態(☞P5)を表示します。

⑥ [EDIT]キー

長く(約1秒)押すごとに、送信出力(5W(High)/1W(Low))が切り替わります。(☞P31)

※ ユーザーコード(☞P14)、秘話キー(☞P19)を設定するときは、短く押すごとに、編集できる桁が切り替わります。

※ プライベートチャンネルスキャン中に短く押すと、スキャンが解除されます。(☞P30)

※ セットモードや詳細セットモード(☞8章)に移行したときは、短く押すごとに、設定項目が逆送りで切り替わります。

⑦ 〈着脱〉レバー

バッテリーパック、またはアルカリ電池ケース(別売品)の取り付けや取りはずしをします。(☞P1)

⑧ [▼](ダウン)キー/[▲](アップ)キー

通話チャンネル(☞P9)、ユーザーコード(☞P14)、秘話機能(☞P18)、秘話キー(☞P19)の各表示項目の設定内容が切り替わります。

※ セットモードや詳細セットモード(☞8章)のときは、押すごとに、各設定項目の設定内容を選択できます。

⑨ [FUNC/⊶]キー

◎ 短く押すごとに、各表示項目を「ユーザーコード(例:UC OFF)」(☞P14)→「秘話機能(例: 秘話 OFF)」(☞P18)→「通話チャンネル(例:CH 05)」(☞P9)の順に切り変わります。

◎ 長く(約1秒)押すごとに、ロック機能(☞P27)の「ON」/「OFF」が切り替わります。

※ セットモードや詳細セットモード(☞8章)のときは、短く押すごとに、設定項目が逆送りで切り替わります。

※ 短く押す操作は、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)を選択したときだけ無効になります。

⑩ マイクロホン

小型のマイクロホンを内蔵しています。

※ 保護カバー(⑫)をはずして、スピーカーマイクやヘッドセットなどの別売品(☞9章)を接続したときは、動作しません。

※ HM-159SJ/HM-172(別売品:防水形スピーカーマイク)、またはVS-2SJ(別売品:VOXユニット)を接続する場合は、外部電源制御の設定(☞P38)が必要です。

⑪ スピーカー

小型のスピーカーを内蔵しています。

スピーカーマイク(別売品)などを接続すると、動作しません。

⑫ 保護カバー

別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するコネクターを保護します。

保護カバー(☞P51)をはずすと、接続できます。

⑬〈プライベートチャンネル/緊急呼び出し〉ボタン

短く押すごとに、**「ピピッ」**と鳴って、プライベートチャンネル表示(☞P30)と通話チャンネル表示が切り替わります。

※ 緊急呼び出し機能(☞P28)が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。

※ 工場出荷時や全設定初期化時、プライベートチャンネルは、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に設定されています。

⑭ アンテナ

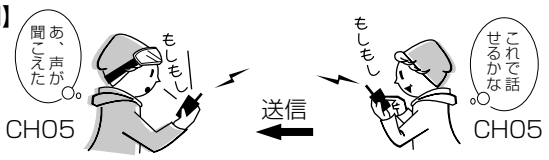
電波を発射、または受信する部分です。

本製品に付属のアンテナを接続(☞P1)します。

3 はじめての通話

相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの非常に簡単な通話のしかたについて説明しています。

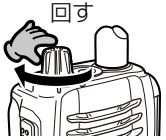
【使用例】



1 電源を入れる

[電源/音量]ツマミを時計方向に、12時の位置まで回します。

- **「カチッ」**と音がして、ビープ音が**「ピー」**と鳴り、通話チャンネル番号が読み上げられます。
  また、表示部と前面部にある各キーの照明が約5秒点灯します。



※ 防塵/防水対応により、簡単に回らない構造になっています。

【電源を入れたときの表示】

電源投入直後　　呼出用チャンネル表示★

★ 工場出荷時や全設定初期化時は、呼出用チャンネル(CH15)を表示します。(☞P9)
運用後は、前回選択した通話チャンネル(CH01～CH14、CH15(呼出CH)、CH16～CH30)を表示します。

2 音量を調整する

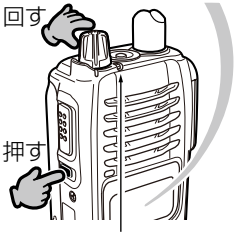
[電源/音量]ツマミを時計方向に回すと音量が大きくなります。
相手の音声が聞きやすい音量レベル(表示例:10)に調整してください。

- 調整範囲:0～32

何も音が出ていない状態での調整は、**[モニタ]**スイッチを押しているあいだ、**「ザー」**という音が出ますので、この音を聞いて調整します。

※ **「ザー」**という音が出ない場合は、[モニタ]スイッチの動作が「モニタ」に設定されていることを確認してください。(☞P41)

音量レベル表示例：10



[モニタ]スイッチを押しているあいだ、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯

《ご注意》音量が最小のときは、操作音(ビープ音)、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。

【ご参考に】チャンネル番号音声案内機能について
電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。
※ 詳細セットモードで、音声案内(☞P44)が「OFF」に設定されているときは、読み上げをしません。

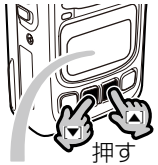
3 通話チャンネルを合わせる

[▼](ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲：01～14、16～30

※ 通話チャンネルとは、通話に使用する周波数のことです。
相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

※ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押しつづけると連続動作します。
一巡すると、ビープ音が**「ピピッ」**と鳴ります。



通話チャンネル表示
(表示例：5チャンネル)

【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示します。

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話(☞P12)や秘話機能(☞P16)、個別呼び出し機能(☞P21)による通話に使用できません。

呼出用チャンネル表示

「呼出CH」で呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に変更してから通話してください。

4 [PTT(送信)]スイッチを押す

[PTT(送信)]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。

【マイクロホンの使いかた】

マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。
マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

【ご参考に】

◎**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯中は、混信防止機能(☞P11)によって送信できない場合があります。

◎**[PTT(送信)]スイッチを押したときのビープ音について**
「ピッ」と鳴ったら、通話相手に呼びかけてください。
※ 詳細セットモードで、送信モニター(☞P37)が「OFF」に設定されているときは、**「ピッ」**(ビープ音)と鳴りません。

5 相手の音声を受信する

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。

受信中は、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(☞P5)を表示します。

待ち受け状態のときは、**[送信/受信]**ランプが消灯しています。

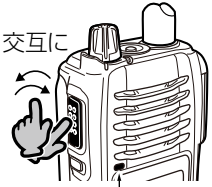
受信中の表示例

通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)を受信しているときも、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

6 通話をつづける

送信と受信は交互にします。

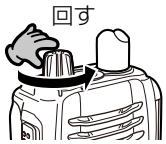
※ 相手が送信しているときは、**[PTT(送信)]**スイッチを押しても混信防止機能(☞P11)が動作して、ビープ音が**「プップッ…」**と鳴りつづけ、送信できません。
相手の通話が終了してから、送信してください。



※ 送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。

7 電源を切る

使用後は、**[電源/音量]**ツマミを反時計方向に**「カチッ」**と鳴るまで回します。



● 電源を切る前の通話チャンネルを記憶して電源が切れます。

※ 電源を切る直前に、表示内容を変更してすぐ(2秒以内)に電源を切ると、電源を切る前の状態が記憶されません。
表示内容を変更後に電源を切るときは、2秒以上経過してから電源を切ってください。

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、**「5分以内」**と電波法で定められています。
制限時間の**10秒前**になると、ビープ音が**「ピッ」**と鳴ります。
連続通話時間が5分になると、警告音が**「ブッ」**と鳴って、自動的に送信を停止します。
※送信を自動停止すると、1分間は通話できません。
通話を再開する場合は、1分後に**[PTT(送信)]**スイッチを押してください。

2. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線局の運用では、同じ通話チャンネルで自分が送信中のときにほかの人が送信すると混信を受け通話ができない場合があります。
また、逆にほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。
このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を受信している場合は、通話中とみなし送信できないように自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。
キャリアセンスの機能は、3秒以上通話が途切れた場合に動作します。
なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがありますが、故障ではありません。
本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。
このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなることがあります。
◇通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。(送信出力:5W)
見通しのよい場所:約4km
市街地や建物内　:約0.5～1km
◇通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して通話してください。
また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

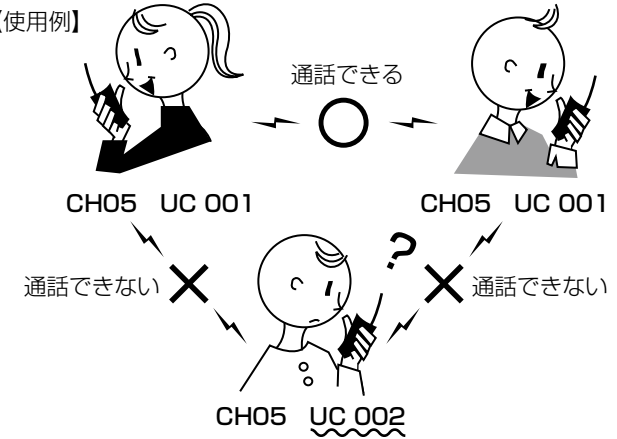
5. パワーセーブ機能について

何も操作しない(受信もしない)状態が10秒を超えると、自動的に本製品の動作を休止状態にし、電池の電流消費を抑えます。
※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
詳細セットモード(☞P35)から設定を変更できます。
なお、個別呼び出し機能(☞P21)とは併用できません。

4 簡単なグループ通話のしかた

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。
通話チャンネル(☞P9)とユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

【使用例】



※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。
※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、ユーザーコードを使用できないため、本章の操作はできません。

【ご参考に】ユーザーコードの設定方法変更について
通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)ごとに異なるユーザーコードを使用する場合は、使用する前に、右記の手順でユーザーコードの設定方法を変更してください。

■ ユーザーコードの設定方法を変更するには

通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用できます。

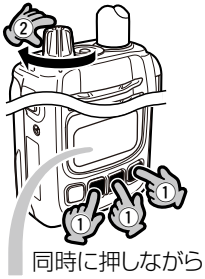
1 詳細セットモードにする

①本製品の電源を切った状態で、**[▼]**(ダウン)キー/**[▲]**(アップ)キー/**[FUNC]**(FUNC)キーを3つ同時に押しつづけます。
②**[電源/音量]**ツマミを矢印の方向に回して電源を入れます。
- ビープ音が**「ピッ」**と鳴って、**「MODE CHG」**を表示します。

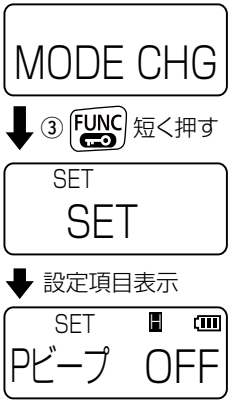
③すべてのキーから手をはなして、**「IC-DPR6」**と表示されるまでに、**[FUNC]**(FUNC)キーを短く押します。
- ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、**「Pビープ」**を表示すれば、詳細セットモードに移行しています。

※この章の説明で使用する設定値は、左図の【使用例】に記載の値を使用しています。

電源を入れる

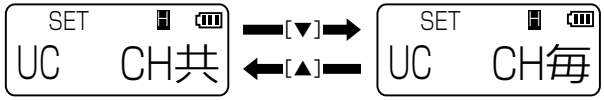


同時に押しながら



2 「UC CH共」/「UC CH毎」を選択する

① **[FUNC]**(FUNC)キーを繰り返し短く押して、「UC CH共」(初期設定時)表示を選択します。(☞P38)
② **[▼]**(ダウン)キーを押すと「UC CH毎」表示、[▲](アップ)キーを押すと「UC CH共」表示を選択できます。

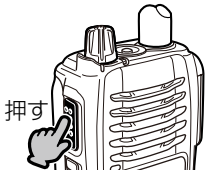


通話チャンネル共通　　通話チャンネルごと

3 選択した設定方法に変更する

[PTT(送信)]スイッチを押します。
- 詳細セットモードが解除され、ユーザーコードの設定方法が変更されます。

※詳細セットモードを解除するまで通話できません。



■ ユーザーコードを使用して通話するには

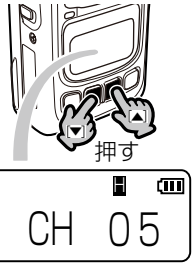
ユーザーコードを使用してグループ通話をする手順です。

※「UC CH毎」に設定されている場合、次ページで設定するユーザーコードが、下記で選択した通話チャンネルに使用されます。

1 通話チャンネルを合わせる

[▼](ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
- 選択範囲:01～14、16～30

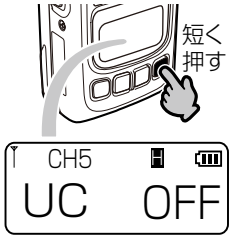
※ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押しつづけると連続動作します。
一巡すると、ビープ音が**「ピピッ」**と鳴ります。



通話チャンネル表示
(表示例：5チャンネル)

■ ユーザーコードを使用して通話するには(つづき)

2 UC(ユーザーコード)表示にする



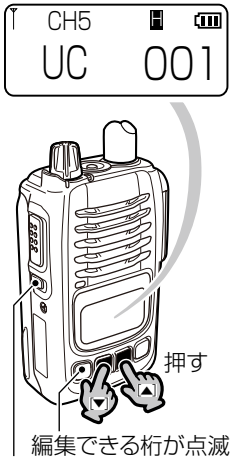
[FUNC] キーを繰り返し短く押して、「UC OFF」(初期設定時)表示を選択します。

- 「UC OFF」→「秘話 OFF」→「通話チャンネル(例:CH05)」の順に切り替わります。

※ 表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、通話チャンネル表示に戻ります。

※「UC OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、その相手には聞こえません。

3 ユーザーコードを設定する



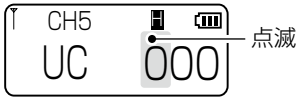
[▼](ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

- 選択範囲:OFF(000)、001～511

【編集できる桁を変更するには】

① **[EDIT]** キーを短く1回、または繰り返し短く押します。

- 編集できる桁が点滅します。



短く1回押したとき
(例:上位1桁目)

② **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、ユーザーコードを選択します。

※ **[モニタ]**スイッチを押すと、編集前の数字に戻ります。

③内容を確定するときは、**[FUNC]** キーを短く押す、または**[EDIT]**キーを繰り返し短く押します。

- 桁の点滅が点灯に変わります。

※約10秒後、通話チャンネル表示に切り替わります。

4 [PTT(送信)]スイッチを押す

[PTT(送信)]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。

※ 設定したユーザーコードは、通話チャンネル(例:CH05)の右側に表示(例:001)されます。

5 相手の音声を受信する

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、自分と同じ通話チャンネルとユーザーコードで通話する相手局の音声を受信できます。

受信中は、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(☞P5)を表示します。

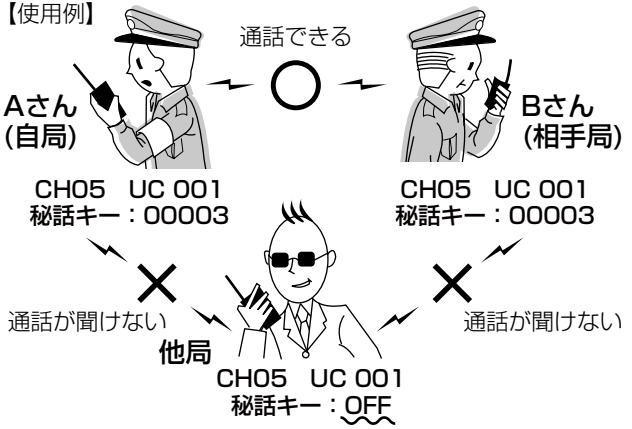
待ち受け状態のときは、**[送信/受信]**ランプが消灯しています。

受信中の表示例

通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードが異なる誰かが通話中)を受信しているときも、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

5 盗聴防止の設定をするには

秘話機能が設定されていない本製品を使用しているほかの相手に、通話内容が盗聴されるのを防止できます。



※ 秘話機能を使用する人(上記の例:Aさん/Bさん)には、秘話機能を使用しない人(上記の例:他局)の通話が聞こえます。
※ 秘話キーが異なる相手の通話は聞こえません。
※ユーザーコードや個別呼び出し機能とも併用できます。
※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、ユーザーコードを使用できないため、本章の操作はできません。

【ご参考に】秘話キーの設定方法変更について
通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)ごとに異なる秘話キーを使用する場合は、使用する前に、右記の手順で秘話キーの設定方法を変更してください。

■ 秘話キーの設定方法を変更するには

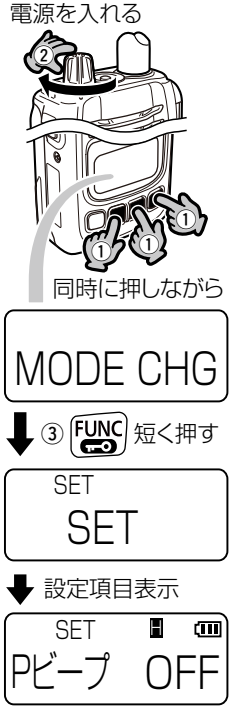
通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用できます。

1 詳細セットモードにする

①本製品の電源を切った状態で、**[▼]**(ダウン)キー/**[▲]**(アップ)キー/**[FUNC]**(FUNC)キーを3つ同時に押しつづけます。
②**[電源/音量]**ツマミを矢印の方向に回して電源を入れます。
- ビープ音が**「ピッ」**と鳴って、**「MODE CHG」**を表示します。

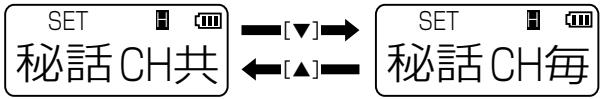
③すべてのキーから手をはなして、**「IC-DPR6」**と表示されるまでに、**[FUNC]**(FUNC)キーを短く押します。
- ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、**「Pビープ」**を表示すれば、詳細セットモードに移行しています。

※この章の説明で使用する設定値は、左図の【使用例】に記載の値を使用しています。



2 「秘話CH共」/「秘話CH毎」を選択する

① **[FUNC]**(FUNC) キーを繰り返し短く押して、「秘話CH共」(初期設定時)表示を選択します。(☞P33)
② **[▼]**(ダウン)キーを押すと「秘話CH毎」表示、[▲](アップ)キーを押すと「秘話CH共」表示を選択できます。

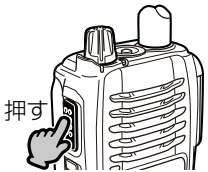


通話チャンネル共通　　通話チャンネルごと

3 選択した設定方法に変更する

[PTT(送信)]スイッチを押します。
- 詳細セットモードが解除され、秘話キーの設定方法が変更されます。

※詳細セットモードを解除するまで通話できません。



■ 秘話キーを使用して通話するには

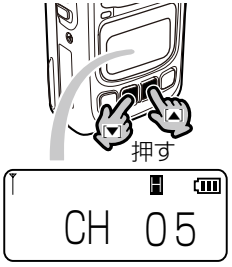
秘話キーを使用して通話をする手順です。

※「秘話CH毎」に設定されている場合、次ページで設定する秘話キーが、下記で選択した通話チャンネルに使用されます。

1 通話チャンネルを合わせる

[▼](ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
- 選択範囲:01～14、16～30

※ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押しつづけると連続動作します。
一巡すると、ビープ音が**「ピピッ」**と鳴ります。



通話チャンネル表示
(表示例：5チャンネル)

■ 秘話キーを使用して通話するには(つづき)

2 秘話表示にする

[FUNC] FUNC キーを繰り返し短く押して、「秘話 OFF」(初期設定時)表示を選択します。

- 「UC OFF」→「秘話 OFF」→「通話チャンネル(例:CH05)」の順に切り替わります。

※ 表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、通話チャンネル表示に戻ります。

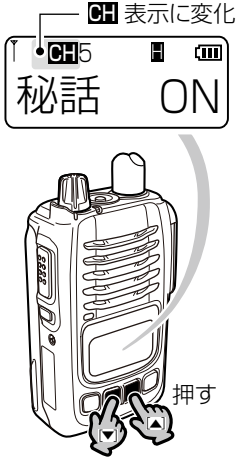
※「秘話 OFF」の場合、秘話機能を使用する他局の音声は聞こえません。

3 秘話機能をONにする

[▼](ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを短く押して、「秘話 ON」表示に切り替えます。

- **「ピピッ」**と鳴って、「CH」表示になります。

※「秘話 ON」の場合、自分の音声は、秘話キーが異なる他局には聞こえ(盗聴され)ません。

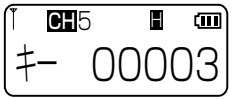


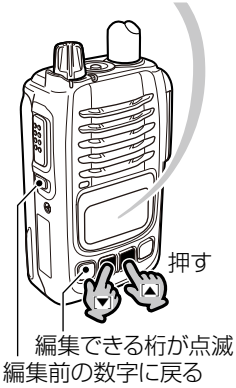
《ご注意》
機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。
また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

4 秘話キーを設定する

① **[EDIT]**キーを短く1回押します。
- 秘話キーを表示します。

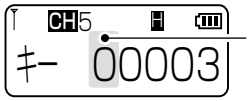
② **[▼]**(ダ ウ ン)キ ー、ま た は**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じ秘話キー(5桁)を設定します。
- 選択範囲:00001～32767





【編集できる桁を変更するには】

① **[EDIT]**キーを短く2回、または繰り返し短く押します。
- 編集できる桁が点滅します。



短く2回押したとき(例：上位1桁目)

② **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、秘話キーを選択します。

※ **[モニタ]**スイッチを押すと、編集前の数字に戻ります。

③内容を確定するときは、**[FUNC]**(FUNC)キーを短く押す、または**[EDIT]**キーを繰り返し短く押します。
- 「秘話 ON」を表示します。

※約10秒後、通話チャンネル表示に切り替わります。

5 [PTT(送信)]スイッチを押す

[PTT(送信)]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。
- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。

5 盗聴防止の設定をするには

■ 秘話キーを使用して通話するには(つづき)

6 相手の音声を受信する

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。

受信中は、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(☞P5)を表示します。

待ち受け状態のときは、**[送信/受信]**ランプが消灯しています。

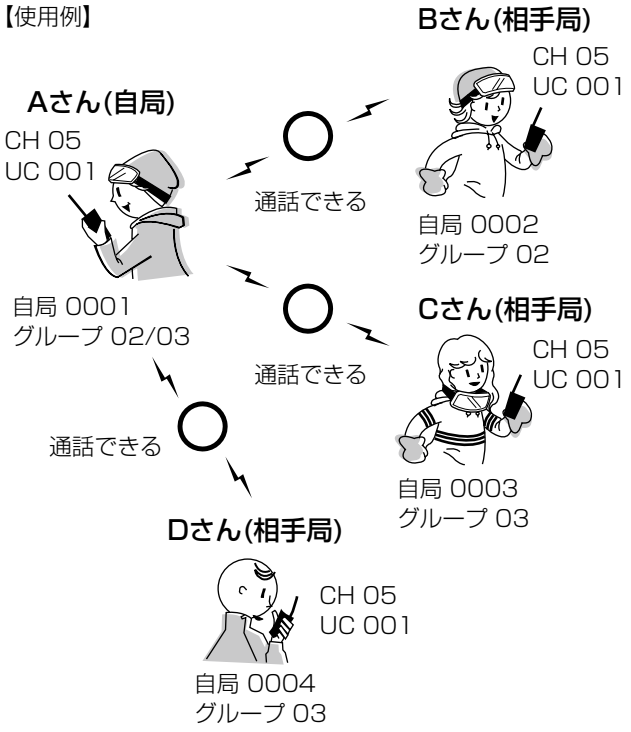
受信中の表示例

通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで、秘話キーが異なる誰かが通話中)を受信しているときも、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

※他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

■ 呼び出しかたの種類について

個別呼び出し機能を使用した呼び出しかたの種類について、下図を例に説明します。



※パワーセーブ機能(☞P43)との併用は、できません。

呼び出しかたには、次の3種類の方法があります。

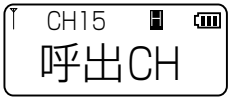
◎全局呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じ相手局(使用例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

◎個別呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(使用例:Bさん)の自局番号(使用例:0002)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、メンバー指定(☞P23)されたグループ番号(使用例:グループ 03)に所属するすべての相手(使用例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

【「呼出CH」表示での機能制限について】

CH15は、呼出用チャンネルで、「呼出CH」と表示されます。「呼出CH」表示のときは、グループ通話(☞P12)や秘話機能(☞P16)、個別呼び出し機能(☞P21)による通話に使用できません。



呼出用チャンネル表示

6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには

通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

1 詳細セットモードにする

①本製品の電源を切った状態で、**[▼]**(ダウン)キー/**[▲]**(アップ)キー/**[FUNC]** FUNCキーを3つ同時に押しつづけます。

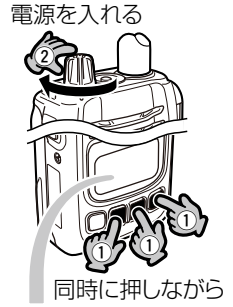
②**[電源/音量]**ツマミを矢印の方向に回して電源を入れます。

- ビープ音が**「ピッ」**と鳴って、**「MODE CHG」**を表示します。

③すべてのキーから手をはなして、**「IC-DPR6」**と表示されるまでに、**[FUNC]** FUNCキーを短く押します。

- ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、**「Pビープ」**を表示すれば、詳細セットモードに移行しています。

※この章の説明で使用する設定値は、【使用例】(☞P21の図)に記載の値を使用しています。



MODE CHG

③ FUNC 短く押す

SET
SET

設定項目表示

SET
Pビープ OFF

2 「個別 ON」を選択する

①**[FUNC]** FUNCキーを繰り返し短く押して、「個別 OFF」(初期設定時)表示を選択します。(☞P38)

②**[▼]**(ダウン)キーを押すと「個別 OFF」表示、[▲](アップ)キーを押すと「個別 ON」表示を選択できます。

SET 個別 OFF ⇐[▼] [▲]⇒ SET 個別 ON

個別呼び出し機能OFF　　個別呼び出し機能ON

※個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

3～**5**の手順で記載する設定値は、【使用例】(☞P21)に記載の値を使用して説明しています。

3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。

①**[FUNC]** FUNCキーを繰り返し短く押して、「自局 0001」(初期設定時)表示を選択します。(☞P38)

②**[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押して、自局番号を設定します。

自局 自局 0001

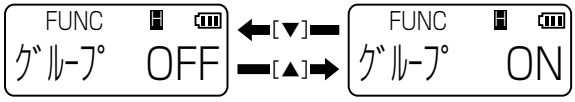
自局番号表示
(表示例:0001)

3 自局番号を設定する(つづき)

【設定例】
個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。
Aさん(自局)　:0001　Bさん(相手局):0002
Cさん(相手局):0003　Dさん(相手局):0004

4 「グループ ON」を選択する

① **[FUNC]**(FUNC)キーを繰り返し短く押して、「グループ OFF」(初期設定時)表示を選択します。(☞P39)
② **[▼]**(ダウン)キーを押すと「グループ OFF」表示、[▲](アップ)キーを押すと「グループ ON」表示を選択できます。



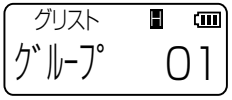
グループ番号を使用しない　　グループ番号を使用する

※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

5 グループ呼び出しのメンバー指定

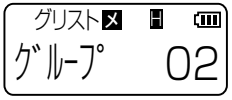
ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号を指定します。

① **[FUNC]**(FUNC)キーを繰り返し短く押して、「グループ 01」(初期設定時)表示を選択します。(☞P33)



② **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押して、指定するグループ番号を選択します。
③ 選択したグループ番号(例:グループ 02)を表示した状態で、**[モニタ]**スイッチを押します。
- メンバー指定を意味する ☒ を表示します。

※複数のグループからの呼び出しを受けるときは、②と③の操作を繰り返します。



メンバー指定の状態

【メンバー指定するグループ番号の例】
グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。
Aさん(自局)　:グループ02/グループ03
Bさん(相手局):グループ02
Cさん(相手局):グループ03
Dさん(相手局):グループ03

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

6 変更した設定値を確定する

2～5 の手順で変更した設定値を確定するために、**[PTT(送信)]**スイッチを押します。

- 詳細セットモードが解除され、設定した自局番号の表示(約1秒)後、「**All**」(全局)が表示されます。

※ 設定値を変更後に、**[EDIT]**キー、または**[FUNC]** FUNC キーを押して、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

※ 詳細セットモードを解除するまで通話できません。

「All」(全局)を表示

【自局番号表示例】

電源投入直後　　自局番号表示例★

★自局番号表示後に表示される内容は、電源を切る前の表示(通話チャンネル/相手局番号/グループ番号)によって異なります。

■ 個別呼び出し機能で通話するには

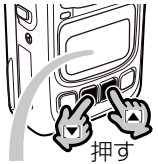
相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※ 個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(☞P22～P24)されているものとして説明しています。

1 通話チャンネルを合わせる

[▼](ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲:01～14、16～30



「All」(全局)の表示

通話チャンネル表示
(表示例：5チャンネル)

「All」(全局)表示で、[PTT(送信)]スイッチを押すと

通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)、ユーザーコード、秘話機能の設定が同じすべての相手を呼び出しできます。

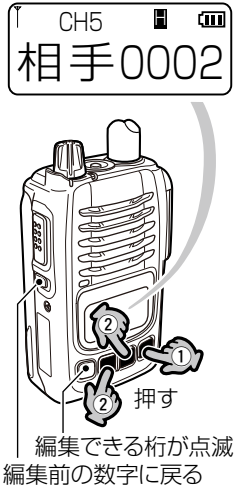
あらかじめ、自局番号を通話相手に知らせるときなどに使用できます。

2 相手局番号を合わせる

▶1局を呼び出すときは(個別呼び出し)

① **[FUNC]**(FUNC)キーを繰り返し短く押して、「相手局番号」(初期設定時:0002)表示を選択します。

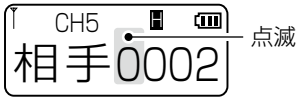
② **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押して、相手の自局番号(例:0002)に合わせます。



【編集できる桁を変更するには】

①「相手局番号」表示の状態で、**[EDIT]**キーを短く1回、または繰り返し短く押します。

● 編集できる桁が点滅します。



短く1回押したとき(例:上位1桁目)

② **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、相手局番号を選択します。

※ **[モニタ]**スイッチを押すと、編集前の数字に戻ります。

③内容を確定するときは、**[FUNC]**(FUNC)キーを短く押す、または**[EDIT]**キーを繰り返し短く押します。

● 桁の点滅が点灯に変わります。

▶グループを呼び出すときは

① **[FUNC]**(FUNC)キーを繰り返し短く押して、「グループ番号」(初期設定時:01)表示を選択します。

② **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押して、呼び出しをする相手のグループ番号(例:02)に合わせます。

※通話相手の無線機側でメンバー指定(✓)をしていないグループ番号(☞P39)と同じ番号を選択して呼び出しをしても、その相手には、自分の音声が聞こえません。
ただし、その相手から最初に呼び出しがあったときは、相手局番号とグループ番号を交互に点滅表示(☞P26)しますので、呼び出しを受ける前の表示に戻る(終話する)までに、**[PTT(送信)]**スイッチを押すと、応答できます。
終話するまでのあいだに、送信と受信を交互にする(☞P10)ことで、通話をつづけられます。

■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

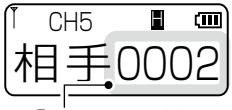
3 呼び出す

① 呼び出す前に、現在の表示内容を確認します。
表示内容によって、**3とおりの呼び出しかた**ができます。

◎ 全局呼び出しをする場合
「All」(全局)表示
(例:CH 05)

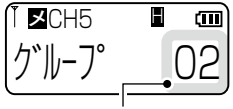
「All」(全局)表示

◎ 個別呼び出しをする場合
「相手局番号」表示
(例:相手0002)



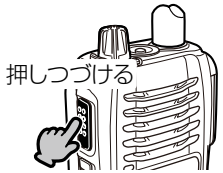
「相手局番号」表示

◎ グループ呼び出しをする場合
「グループ番号」表示
(例:グループ 02)



「グループ番号」表示

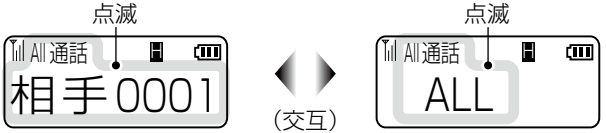
②**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。
- **[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。



4 呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、下図の表示状態で**[PTT(送信)]**スイッチを押すと、応答できます。

◎全局呼び出しを受けたとき
相手局番号とALLを交互に点滅表示します。

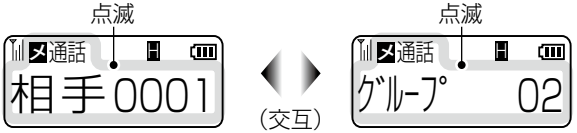


相手局番号を点滅表示　ALLを点滅表示

◎個別呼び出しを受けたとき
相手局番号を点滅表示します。
ポケットビープ機能やポケットビープメロディー機能が設定されているときは、設定されたビープ音やメロディー音が鳴ります。
※応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。

相手局番号を点滅表示

◎グループ呼び出しを受けたとき
相手局番号とグループ番号を交互に点滅表示します。



相手局番号を点滅表示　グループ番号を点滅表示

■ ロック機能

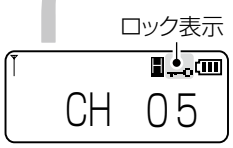
電源を入れなおしたり、不用意に無線機のキーやボタンに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

[🔑] FUNC キーを長く（約1秒）押します。

- ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、🔑を表示します。

※同じ操作をすると、解除できます。



〈ロック中にできる操作〉

◎ロック機能の解除
◎送信/受信の切り替え
◎モニター機能★1.のON/OFF
◎電源のON/OFFと音量調整★2.

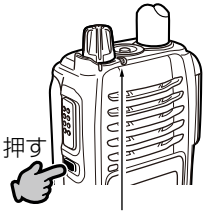
★1.**[モニタ]**スイッチの動作を変更している場合を除きます。（☞P41）
★2.音量調整がロックされるように、詳細セットモード（☞P43）で変更できます。

■ モニター機能

[モニタ]スイッチを押しているあいだ、有効になります。

モニター機能は、次のような場合に使用します。

◎受信音がない状態で、**「ザー」**という音を聞きながら音量を調整するとき
◎ユーザーコード、相手局番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くとき
※他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。



[モニタ]スイッチを押しているあいだ、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯

【[モニタ]スイッチの動作変更時のご注意】

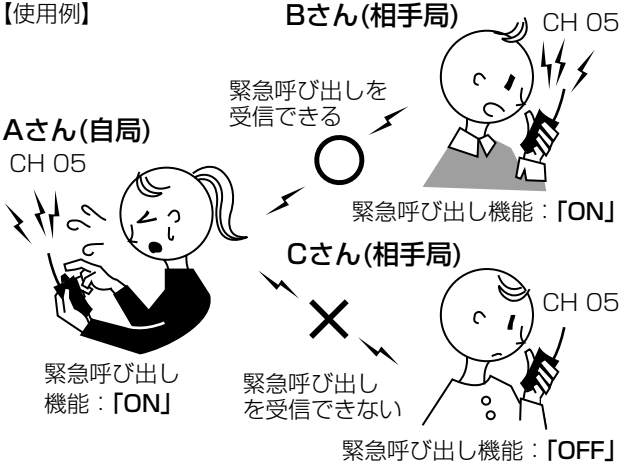
詳細セットモードで、[モニタ]スイッチの動作（☞P41）を「モニタ」（初期設定値）以外に設定されているときは、モニター機能を使用できません。

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

個別呼び出し機能による通話で、迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。詳細セットモードから設定を変更できます。(☞P40)

【使用例】



⚠警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

本製品にヘッドセットやイヤホンを取り付けて、緊急呼び出し機能を使用する場合は、**[電源/音量]**ツマミを回して、音量が適切な位置になっていることを確認してください。

【緊急呼び出しを機能を正しく使用するには】

個別呼び出し機能(☞P38)と緊急呼び出し機能の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。

設定されていないときは、緊急呼び出しの受信、または応答ができません。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

◎音量が最小に設定されている場合
◎動作中、電池の消耗により自動的に電源が切れた場合
◎電波状況の悪化により電波が届かない場合
◎「呼出CH(CH15)」を選択している場合
◎「上空用チャンネル(S1～S5」を選択している場合
◎混信防止機能(☞P11)により送信制限された場合

【緊急呼び出しのしかた】

下記の操作をすると、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しします。

①緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択します。

②「緊急」が表示されるまで、**〈プライベートチャンネル/緊急呼び出し〉**ボタンを長く(5秒以上)押します。

- 「緊急」表示の点滅と同時に、警告音が**「ピピピ･･･」**と鳴って、一定の間隔ごとに**[状態表示]**ランプが赤色に点灯します。

③その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

- 応答があると、警告音が停止して、**[状態表示]**ランプが緑色に点灯します。

④交信をつづけます。

- 終話すると、「緊急」表示の点滅を停止し、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

【緊急呼び出しを受けたときは】

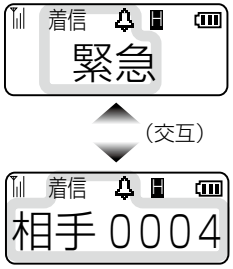
①警告音が**「ピピピ･･･」**と鳴って、**[状態表示]**ランプが赤色に点滅します。
また、「緊急」と「相手局番号」を交互に表示します。

②**[PTT(送信)]**スイッチを押して、応答します。

- 警告音が停止します。

③交信をつづけます。

- 終話すると、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。



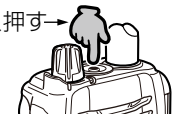
(例：相手0004)

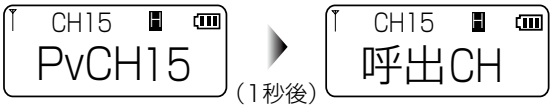
■ プライベートチャンネル機能

特定の通話チャンネルをプライベートチャンネル(例:呼出CH)に設定することで、よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)との切り替えが簡単になります。

【操作のしかた】

〈プライベートチャンネル/緊急呼び出し〉ボタンを短く押すと、プライベートチャンネル番号に切り替わります。





プライベートチャンネル表示　　プライベートチャンネル番号

※ プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、**〈プライベートチャンネル/緊急呼び出し〉**ボタンの操作は無効です。

※ 工場出荷時や全設定初期化時、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。詳細セットモードから設定を変更できます。(☞P41)

【通話チャンネル番号に戻すには】

[▼](ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押します。

プライベートチャンネル番号　　通話チャンネル番号

■ プライベートチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)を受信しながら、プライベートチャンネル番号(例:呼出CH)を一定の時間ごとに受信(監視)できます。

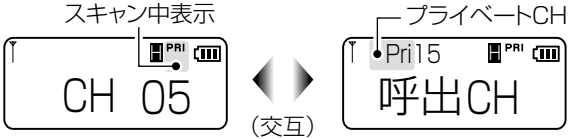
※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。下記の操作をする前に、詳細セットモードで、[モニタ]スイッチの動作(☞P41)を「Scn」に変更してください。

【操作のしかた】

ビープ音が**「ピッ」**と鳴るまで、**[モニタ]**スイッチを長く(約1秒)押します。

● プライベートチャンネルスキャンを開始します。

※ 「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)をプライベートチャンネルに設定したときは、下記のように切り替わります。



通話チャンネル表示　　呼出用チャンネル表示

※ プライベートチャンネル番号に秘話キーが設定されているときは、スキャン中に、Pri が表示されます。

※ プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、**[モニタ]**スイッチの操作は無効です。

【プライベートチャンネルスキャンを解除するには】

[EDIT]キー、または**[FUNC]**(FUNC)キーを短く押します。

※ 電源を入れなおしても、解除されません。

【スキャン動作について】

◎ 通話チャンネル(例:CH 05)で待ち受け中は、2秒ごとにプライベートチャンネル(例:呼出CH)をスキャンします。スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。

◎ プライベートチャンネルに電波がないときは、すぐに通話チャンネル(例:CH 05)に戻ります。

◎電波を受信中は、詳細セットモードのスキャン停止時間(☞P42)とスキャン再開時間(☞P42)の設定にしたがってスキャンします。
このとき、緊急呼び出しをすると、スキャン動作が解除されます。

◎**[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーでスキャンを再開できます。

◎上空用チャンネル(S1～S5)が設定(☞P44)されている場合は、上空用チャンネルをスキャンの対象にできます。

◎スキャン中に呼び出しをする場合は、通話チャンネル(例:CH 05)で送信します。

■ 送信出力の切り替え

[EDIT]キーを長く(約1秒)押すごとに、「5W(High)」/「1W(Low)」を切り替えできます。

◎5W(High)は「**H**」、1W(Low)は「**L**」を表示します。

◎通話相手との距離が近いときは、1Wで使用すると、消費電力を節約できます。

送信出力表示

※上空用チャンネル(☞Pi、P44)表示(S1～S5)のときは、「**R**」が点灯し、送信出力の切り替えはできません。

■ ポケットビープ機能

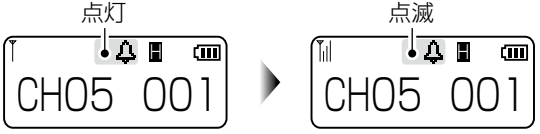
下記の呼び出しを受けたとき、有効になる機能です。

このときに鳴るビープ音は、いずれかのキーやスイッチの操作で、停止できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。詳細セットモードから設定を変更できます。(☞P32)

【ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき】

🔔の点滅とビープ音でお知らせします。

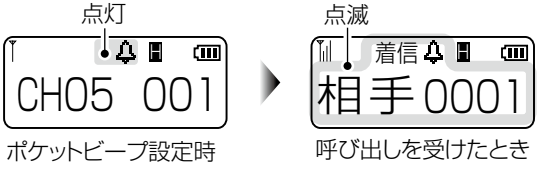


【個別呼び出しによる呼び出しを受けたとき】

ビープ音でお知らせします。

※ ユーザーコードと併用したときも同じです。

※ ポケットビープ機能が設定されていない状態で呼び出しを受けたときは、**🔔の点滅だけになります。**



■ ポケットビープメロディー機能

ポケットビープ機能で呼び出しを受けたときの呼び出し音をメロディー音(9種類)に設定できます。

このときに鳴るビープ音は、いずれかのキーやスイッチの操作で、停止できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。詳細セットモードから設定を変更できます。(☞P36～P37)

※ 呼び出しを受けたときの表示は、ポケットビープ機能と同じです。

■ 受信電波強度通知機能

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信信号の強度が弱くなり、相手の音声が途切れるなどして、通話がつづけられない状態になると、警告音でお知らせします。

※ 警告音が鳴ったときは、場所を少し移動して通話してください。
受信信号の強度が強くなり、ふたたび信号を受信できるようになると、警告音は止まります。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。詳細セットモードから設定を変更できます。(☞P44)

■ 着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号（相手の自局番号）やグループ番号が記憶されます。
記憶された相手局番号は、呼び出しに利用できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。詳細セットモードから設定を変更できます。（☞P40）

【着信履歴の確認と呼び出しについて】

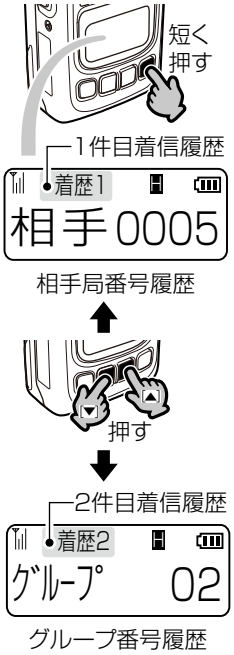
①右図のように、「着歴1」と表示されるまで、**[FUNC]**(FUNC)キーを繰り返し短く押します。

②着信履歴が2件以上の場合は、「着歴1」表示の状態で、**[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押すと、確認できます。

※「着歴1」から順に最新の履歴となるように記憶します。

③呼び出す相手またはグループの番号を表示した状態で、**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。

- **[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。



【着信履歴の内容や件数に異常があると思われたときは】

セットモードの着信履歴消去（☞P40）から履歴を消去してください。
それでも改善しない場合は、全設定を初期化（☞P53）してください。

【着信履歴件数と履歴の消去について】

※ 最大10件の着信履歴を記憶できます。
10件を超えると、古い着信履歴から削除されます。

※ 全局呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

※ 着信履歴の消去（☞P40）は、セットモードからできます。

8 各種機能の設定

■ 設定項目一覧

セットモード、または詳細セットモードから、本製品の各機能を変更する方法について説明します。
各機能は、運用状況に応じて、以下の参照ページからお好みの設定に変更できます。
□ 欄は、セットモードでも変更できる設定項目です。

機能名称	名称表示	初期値	参照
❶ポケットビープ	Pビープ	OFF	P36
❷ポケットビープメロディー★1.	MELO	1	P37
❸送信モニター	TXBP	ON	P37
❹秘話	秘話	CH共	P37
❺マイクゲイン	マイクG	0	P37
❻外部電源制御	EXVC	GND	P38
❼ユーザーコード	UC	CH共	P38
❽個別呼び出し	個別	OFF	P38
❾自局番号設定★2.	自局	0001	P38
❿相手局番号表示★2.	相手	ON	P39
⓫グループ番号表示★2.	グループ(FUNC)	OFF	P39
⓬メンバー指定★2.	グループ(グリスト)	未指定	P39
⓭着信履歴★2.	着歴	OFF	P40
⓮終話後表示★2.	終表	話前	P40
⓯着信履歴消去★2.	履歴	ーーー	P40

★1.ポケットビープ(❶)の設定が「MELO」のとき、設定できます。
★2.個別呼び出し(❽)の設定が「ON」のとき、設定できます。

機能名称	名称表示	初期値	参照
⓰エマージェンシー	EMER	OFF	P40
⓱プライベートチャンネル	PvCH	ON	P41
⓲プライベートチャンネル番号★3.	CH	呼出	P41
⓳[モニタ]スイッチの動作	MONI	モニタ	P41
⓴スキャン停止時間★4.	停止	10S	P42
㉑スキャン再開時間★4.	再開	5S	P42
㉒通話後スキャン動作★4.	話後	解除	P43
㉓パワーセーブ★5.	PWSV	OFF	P43
㉔キーロック時の音量操作	KYLK	VOL	P43
㉕チャンネル番号音声案内	案内	ON	P44
㉖受信電波強度通知	受通	OFF	P44
㉗上空用チャンネル	SkyR	OFF	P44
㉘LCDコントラスト	LCD	12	P44
㉙全設定初期化	リセット	NO	P45

★3.プライベートチャンネル(⓱)の設定が「ON」のとき、設定できます。
★4.[モニタ]スイッチの動作(⓳)の設定が「Scn」のとき、設定できます。
★5.個別呼び出し(❽)の設定が「OFF」のとき、設定できます。

■ セットモードに移行するには

マイクゲインの設定と着信履歴の消去に使用します。

【操作のしかた】

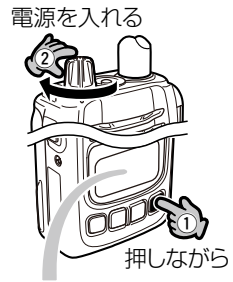
①本製品の電源を切った状態で、**[FUNC]** FUNC キーを押しつづけます。

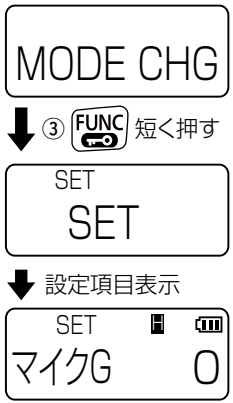
②**[電源/音量]**ツマミを矢印の方向に回して電源を入れます。

- ビープ音が**「ピッ」**と鳴って、**「MODE CHG」**を表示します。

③**[FUNC]** FUNC キーから手をはなして、**「IC-DPR6」**と表示されるまでに、**[FUNC]** FUNC キーを短く押します。

- ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、**「マイクG」**を表示すれば、セットモードに移行しています。





■ 詳細セットモードに移行するには

すべての機能(☞P34)が変更できます。

【操作のしかた】

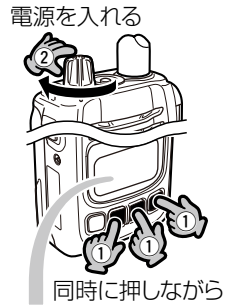
①本製品の電源を切った状態で、**[▼]**(ダウン)キー/**[▲]**(アップ)キー/**[FUNC]** FUNC キーを3つ同時に押しつづけます。

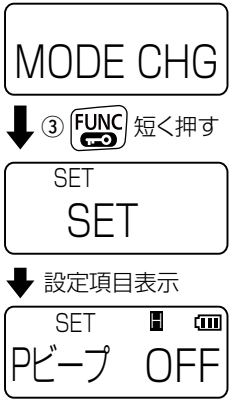
②**[電源/音量]**ツマミを矢印の方向に回して電源を入れます。

- ビープ音が**「ピッ」**と鳴って、**「MODE CHG」**を表示します。

③すべてのキーから手をはなして、**「IC-DPR6」**と表示されるまでに、**[FUNC]** FUNC キーを短く押します。

- ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、**「Pビープ」**を表示すれば、詳細セットモードに移行しています。





■ 設定のしかた

セットモード、または詳細セットモードに移行(☞P35)後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

① **[FUNC]** FUNC キー、または**[EDIT]**キーを繰り返し短く押して、設定項目(❶～㉙ ☞P34)を選択します。
※[個別呼び出し](❽)が「OFF」の場合、セットモードから設定できるのは[マイクゲイン](❺)だけです。

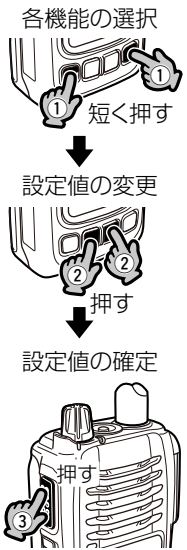
②目的の機能名称で、**[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押します。
- 設定値が切り替わります。

※ほかの機能も変更するときは、①と②の操作を繰り返します。

③ **[PTT(送信)]**スイッチを押します。
- 選択した設定値を確定し、セットモード、または詳細セットモードが解除されます。

※設定値を変更後に、**[EDIT]**キー、または**[FUNC]** FUNC キーを押し、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

※セットモード、または詳細セットモードを解除するまで通話できません。

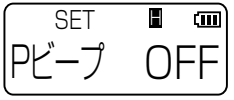


■ 設定項目について

❶ポケットビープ (初期設定値:OFF)

ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。

- OFF :ポケットビープを使用しない
- 30F :「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3F :「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- MIN :「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- CON :「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- PIー :「ピー」と音が1回鳴る
- PPP :「ピピピ」と音が1回鳴る
- MELO :[ポケットビープメロディー](❷)で設定したメロディー音が鳴る



※ グループ、または全局呼び出しを受けたときは、ポケットビープを「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

❷ポケットビープメロディー （初期設定値：1）

[Pビープ]（❶ポケットビープ）を「MELO」に設定したとき表示され、ポケットビープ着信時のメロディー音を設定します。

● 選択範囲：1～9

❸送信モニター （初期設定値：ON）

[PTT(送信)]スイッチを押したときのビープ音について設定します。

● ON ：ビープ音（ピッ）が鳴る
● OFF：ビープ音（ピッ）が鳴らない
※ 送信できない場合など、禁止されている操作は、設定に関係なく、音色の異なるビープ音が鳴ります。

❹秘話 （初期設定値：CH共）

通話チャンネル共通の秘話キーを使用するか、通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用するかを設定します。

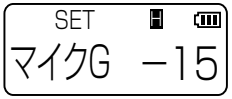
● CH共：通話チャンネル共通の秘話キーを使用する
● CH毎：通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用する

❺マイクゲイン （初期設定値：0）

マイクロホンの感度を設定します。

● 選択範囲（3dB単位）：－15dB（低）～0dB（中）～9dB（高）

※ 周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。
また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。
※セットモードでも変更できる項目です。



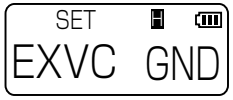
■ 設定項目について(つづき)

❻外部電源制御 (初期設定値:GND)

HM-159SJ/HM-172(別売品:防水形スピーカーマイク)、またはVS-2SJ(別売品:VOXユニット)を接続する場合は、「5V」に設定してください。

- GND :接続しない
- 5V :接続する

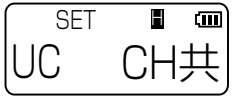
※ HM-159SJ/HM-172/VS-2SJを接続するとき以外は、安全のため、「GND」に設定してご使用ください。

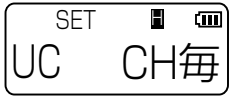


❼ユーザーコード (初期設定値:CH共)

通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

- CH共:通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する
- CH毎:通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する





❽個別呼び出し (初期設定値:OFF)

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

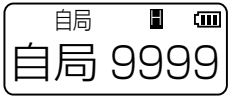
- OFF :使用しない
- ON :使用する

※ パワーセーブ機能と併用できないため、「ON」に設定すると、「PWSV」の設定(☞P43)は、自動的に「OFF」になります。

❾自局番号設定 (初期設定値:0001)

[個別](❽個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示され、この項目で設定する自局番号で個別呼び出しを受けると着信します。

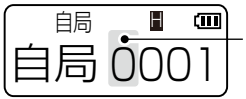
- 選択範囲:0001～9999



【編集できる桁を変更するには】

① **[EDIT]**キーを長く(約1秒)押します。

- 上位1桁目が点滅します。



② 上位2桁目以降は、**[EDIT]**キーを繰り返し短く押します。

③ 編集を終了するときは、**[FUNC]**(FUNC)キーを短く押します。

- 桁の点滅が点灯に変わります。

⑩相手局番号表示 （初期設定値：ON）

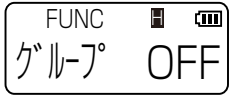
[個別]（❽個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示され、**[FUNC]**（FUNC）キーを繰り返し短く押したとき、個別呼び出しする相手の自局番号を選択する項目の表示について設定します。

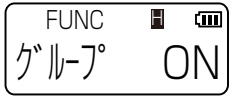
- ON ：表示する
- OFF：表示しない

⑪グループ番号表示 （初期設定値：OFF）

[個別]（❽個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示され、**[FUNC]**（FUNC）キーを繰り返し短く押したとき、グループ呼び出しをする相手のグループ番号を選択する項目の表示について設定します。

- OFF：表示しない
- ON ：表示する





⑫メンバー指定 （初期設定値：メンバー指定なし）

[個別]（❽個別呼び出し）を「ON」に設定したとき、表示されます。

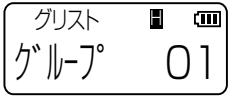
この項目でメンバー指定（■ 点灯）したグループ番号（01～10）でグループ呼び出しを受けると着信します。

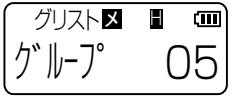
- ■ 点灯：指定する
- ■ 消灯：指定しない

※設定は、**[モニタ]**スイッチを押すごとに、切り替わります。

※複数のグループ番号をメンバーに指定できます。
指定するグループ番号の選択は、[▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを押します。

※メンバー指定をしていないグループ番号（■ 消灯）でグループ呼び出しを受けても、着信しません。





■ 設定項目について(つづき)

⓭着信履歴 (初期設定値:OFF)

[個別](❽個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示され、個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号やグループ番号を着信履歴(☞P33)として表示する設定です。

- OFF :表示しない
- ON :表示する

※着信履歴は、「着歴 OFF」のときも記憶されます。

⓮終話後表示 (初期設定値:話前)

[個別](❽個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示され、通話を終了後、待ち受け状態での表示内容を設定します。

- 話前 :通話前の表示に戻る
- CH :全局、またはグループ呼び出しを受けたときだけ、通話チャンネル表示に戻る
  ※ 個別呼び出しを受けた場合は、相手局番号を点滅表示します。(☞P26)

⓯着信履歴消去 (初期設定値:ーーー)

[個別](❽個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示され、自局番号やグループ番号の変更により、着信履歴を個別呼び出しなどに利用できなくなった場合、その履歴を消去します。

- ーーー :**[PTT(送信)]**スイッチを押しても、消去されない
- CLR :**[PTT(送信)]**スイッチを押すと、消去される

※「CLR」を選択後、**[PTT(送信)]**スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「ーーー」に切り替わります。

※セットモードでも変更できる項目です。

⓰エマージェンシー (初期設定値:OFF)

緊急呼び出し(エマージェンシー)機能の設定です。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

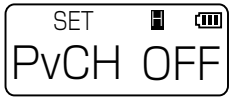
※緊急呼び出し機能を使用するには、この機能と個別呼び出し機能の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。

⓱プライベートチャンネル （初期設定値：ON）

プライベートチャンネル機能（☞P30）を設定します。

- ON ：使用する
- OFF：使用しない

※「ON」に設定すると、**〈プライベートチャンネル/緊急呼び出し〉**ボタンによるプライベートチャンネルへの切り替え操作が有効になります。



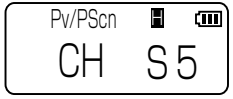
⓲プライベートチャンネルの設定 （初期設定値：呼出）

[PvCH]（⓱プライベートチャンネル）を「ON」に設定したとき表示され、通話チャンネル、または上空用チャンネル（S1～S5）からプライベートチャンネルを設定します。

- 選択範囲：01～14、呼出、16～30、S1～S5

※上空用チャンネルをプライベートチャンネルに設定する場合は、[SkyR]（㉗上空用チャンネル）を「ON」に設定してください。

※上空用チャンネルをプライベートチャンネルに設定した状態で、[SkyR]（㉗上空用チャンネル）を「OFF」に設定すると、プライベートチャンネルは、「呼出CH」（呼出用チャンネル：CH15）に設定されます。



⓳[モニタ]スイッチの動作 （初期設定値：モニタ）

[モニタ]スイッチの動作を設定します。

- OFF ：**[モニタ]**スイッチの操作を無効にする
- モニタ：押しているあいだだけモニター機能（☞P27）をONに切り替える
- CH ：押すと、表示を通話チャンネルに切り替える
- Scn ：プライベートチャンネルスキャン機能を使用する

※[PvCH]（⓱プライベートチャンネル）が「ON」に設定されていると、**[モニタ]**スイッチを長く押すごとに、スキャンの開始と停止の切り替えになります。

■ 設定項目について(つづき)

⑳スキャン停止時間 （初期設定値:10S）

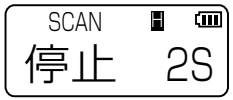
電波を受信中、プライベートチャンネルスキャンを停止する時間を設定します。

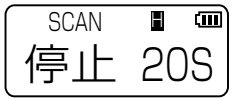
●選択範囲:2S ～20S(2S単位)、保持

※[MONI](⑲[モニタ]スイッチの動作)を「Scn」に設定したとき表示されます。

※電波を受信中に、スキャン停止時間(2S ～20S)が経過すると、スキャンを再開します。
なお、スキャン停止時間(2S ～20S)が経過する前に電波が途切れたときは、スキャン再開時間の設定にしたがってスキャンを再開します。

※「保持」を設定したときは、待ち受け状態になるまで、スキャンを停止します。





㉑スキャン再開時間 （初期設定値:5S）

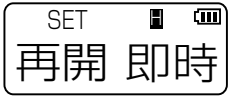
スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンが再開するまでの時間を設定します。

●即時 :すぐにスキャンを再開

●1S ～5S :設定時間後にスキャンを再開

●シナイ :**[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーの操作でスキャンを再開

※[MONI](⑲[モニタ]スイッチの動作)を「Scn」に設定したとき表示されます。



㉒通話後スキャン動作 （初期設定値：解除）

スキャン中、**[PTT(送信)]**スイッチを操作したときのスキャン動作を設定します。

- 解除 :スキャンを解除
- 再開 :数秒後、スキャンを再開

※[MONI](⑲[モニタ]スイッチの動作)を「Scn」に設定したとき表示されます。

㉓パワーセーブ （初期設定値：OFF）

電池の電流消費を抑えるため、待ち受け状態が10秒を超えるとパワーセーブ機能を自動的に設定する機能の設定です。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※[個別](⑧個別呼び出し)を「ON」に設定したときは、併用できないため、パワーセーブの設定が自動的に「OFF」になり、設定も表示されません。

㉔キーロック時の音量操作 （初期設定値：VOL）

ロック機能動作中の音量操作についての設定です。

- VOL :音量操作を有効にする
- ALL :音量操作を無効にする

〈ロック中にできる操作〉

◎ロック機能の解除
◎送信/受信の切り替え
◎モニター機能のON/OFF
◎電源のON/OFFと音量調整

【音量についてのご注意】

「ALL」の設定で、ロック機能を動作中に**[電源/音量]**ツマミを回してからロック機能を解除したときは、変更された音量で受信音が聞こえてきますので、**[電源/音量]**ツマミの位置にはご注意ください。

【設定変更時のご注意】

ロック機能が「ON」で電源を切り、詳細セットモードに移行して、[キーロック時の音量操作]の設定を変更したときだけ、ロック機能が「OFF」になりますので、ご注意ください。

■ 設定項目について(つづき)

㉕チャンネル番号音声案内 (初期設定値:ON)

通話チャンネル番号を読み上げる機能の設定です。

- ON :電源を入れたときや、チャンネルを変更したときに、選択されたチャンネル番号を読み上げる
- OFF:使用しない

※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、「呼び出し」と読み上げます。

※上空用チャンネル(CH S1～CH S5)選択時は、チャンネル番号の前に、「上空」を付けて読み上げます。

㉖受信電波強度通知 (初期設定値:OFF)

受信電波強度通知機能の設定です。

- OFF:警告音で通知しない
- ON :通話がつづけられない状態まで受信信号の強度が弱くなると、警告音で知らせる (☞P32)

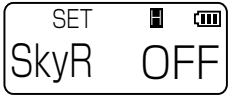
㉗上空用チャンネル (初期設定値:OFF)

上空用チャンネル(S1～S5)の使用を設定します。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※「ON」に設定すると、通話チャンネルから選択できます。

※ 上空用チャンネルでは、送信できません。



㉘LCDコントラスト (初期設定値:12)

表示部のコントラスト(濃淡)を調整します。

- 選択範囲:0(淡)～25(濃)

※**[モニタ]**スイッチを押すと、初期設定値に戻ります。

㉙全設定初期化 （初期設定値：NO）

すべての設定を工場出荷時の状態に戻す（リセット）ときの設定と操作です。

- NO　：**[PTT(送信)]**スイッチを押しても、初期化しない
- YES：**[PTT(送信)]**スイッチを押すと、初期化する

※「YES」を選択後、**[PTT(送信)]**スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「NO」に切り替わります。

【ご注意】

「全設定初期化（リセット）」は、バッテリーパックの残量表示が（十分）の状態で操作してください。（☞P53）

なお、設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

9 別売品とその使いかた

本製品を便利にお使いいただくため、下記の別売品をご用意しています。

【別売品についてのご注意】
弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧表

[★]印のものは、無線機本体に装着することで、IP67相当の防水性能に適合します。

※ 弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ でも、別売品についてご覧いただけます。

無線機を保護する

LC-153 :ハードケースS(BP-274用)
LC-154 :ハードケースL(BP-221用)
LC-164T :ハードケースS(BP-274用)
※ 無線機に装着した状態で、キー操作と充電(BC-161 #02を使用時)ができます。
LC-166T :ハードケースL(BP-221用)
※ 無線機に装着した状態で、キー操作と充電(BC-161 #02を使用時)ができます。

バッテリー関係

BP-274★ :リチウムイオンバッテリーパック(補修用)
BP-221 :アルカリ電池ケース(単3形アルカリ電池×5本)

充電する

BC-161 #02 :卓上急速充電器(☞P48)
※ 別売品のACアダプター(BC-165)を別途お買い求めください。
BC-165 :ACアダプター(BC-161 #02用の電源)
BC-121NA :6連急速充電器(☞P49)
※ 別売品のACアダプター(BC-157S)、またはDC電源ケーブル(OPC-656)を別途お買い求めください。
BC-157S :ACアダプター(BC-121NA用の電源)
OPC-656 :DC電源ケーブル(BC-121NA用の電源)

腰にかける

MB-97 :ベルトクリップ(ステンレス製:☞P51)
MB-98 :ベルトクリップ
MB-86 :回転式ベルトクリップ(☞P50)
MB-122 :ベルトクリップ(ステンレス製:HM-159SJ用)

肩にかける

MB-57L :ショルダーストラップ
※ LC-153、LC-154、LC-164T、LC-166Tのいずれかのハードケースでお使いになれます。
MB-80 :ショルダーストラップ(BP-221/BP-274用)
※ LC-153、LC-154、LC-164T、LC-166Tのいずれかのハードケースでお使いになれます。

スピーカーマイク関係

EM-80 :スピーカーマイク
HM-159SJ★:防水形スピーカーマイク
※MB-122、SP-31を組み合わせてもお使いになれます。
※ご使用になるには、外部電源制御の設定(☞P38)が必要です。
HM-172★ :防水形スピーカーマイク
※ご使用になるには、外部電源制御の設定(☞P38)が必要です。
HM-183SJ★:防水形スピーカーマイク
HM-186SJ :小型スピーカーマイクロホン

スピーカー関係

EH-11 :イヤーパッド型スピーカー(プラグ:2.5φ)
EH-12 :ヘルメット取り付け型スピーカー(プラグ:2.5φ)

イヤホン関係

EH-13 :耳かけ型イヤホン(プラグ:2.5φ)
EH-14 :オープンエアー型イヤホン(プラグ:2.5φ)
EH-15 :イヤホン(プラグ:2.5φ)
※EH-15B(黒色)
SP-28 :耳かけ型イヤホン(プラグ:2.5φ)
SP-16 :耳かけ型イヤホン(プラグ:3.5φ)
※SP-16B(黒色)/SP-16BW(黒色/ロングケーブル)
SP-29 :耳かけ型イヤホン(プラグ:3.5φ)
※SP-29L(L型プラグ:3.5φ)
SP-31 :耳かけ型イヤホン(HM-159SJ専用)
SP-32 :チューブ式イヤホンアダプター
※別売品のEH-15シリーズ、または別売品のSP-16シリーズを別途お買い求めください。

マイクロホン/ヘッドセット関係

HM-104 :単一指向性タイピン型マイクロホン
※HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)
HM-109 :接話タイピン型マイクロホン(☞P51)
※HM-163(HM-109のコネクター部分だけが防水仕様)
HS-86 :ヘルメット取り付け型ヘッドセット
※52ページと併せてご覧ください。
HS-88 :ヘッドセット
HS-92 :ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
※52ページと併せてご覧ください。
HS-99 :耳かけ式イヤホンマイク
※別売品のVOXユニット(VS-2SJ)を別途お買い求めください。
VS-2SJ :VOXユニット(IPX4相当の防水性能)
※別売品の耳かけ式イヤホンマイク(HS-99)を別途お買い求めください。
OPC-636:マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック仕様)
※52ページと併せてご覧ください。
OPC-637:マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ノンロック仕様)
※52ページと併せてご覧ください。

変換アダプター/アンテナ関係

AD-52 :イヤホンジャックアダプター(ジャック:3.5φ)
※51ページと併せてご覧ください。
FA-S04U★ :短縮型アンテナ(5cm)
FA-S05U★ :短縮型アンテナ(5.05cm)
FA-S06U★ :ミドルアンテナ(10.5cm 補修用)
FA-S07U★ :ロングアンテナ(21.6cm 発売予定)

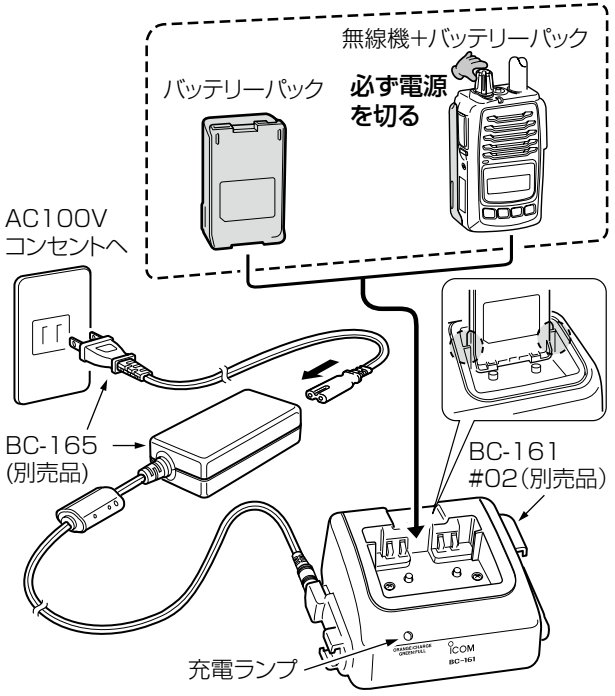
■ BC-161 #02(卓上急速充電器):充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※ 赤色で点滅する場合は、55ページをご覧ください。

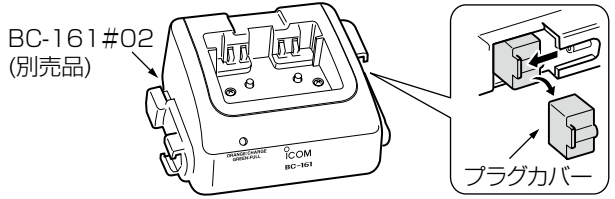
※ BC-161 #02の電源には、必ずBC-165(別売品)をご使用ください。



■ BC-161 #02の連結充電について

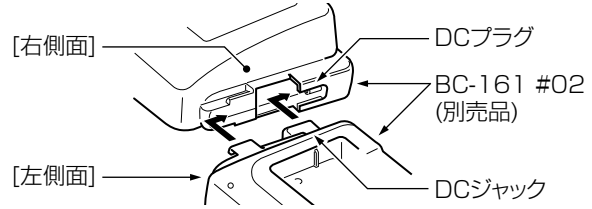
充電器を最大4台まで連結して、同時に充電できます。

① 充電器の右側面に差し込まれているDCプラグカバーを図の方向に取りはずします。



② 右側面にあるDCプラグと、もう1台の充電器(左側面)にあるDCジャックを**「カチッ」**と音がするまで差し込みます。

(手順③☞次ページへ)



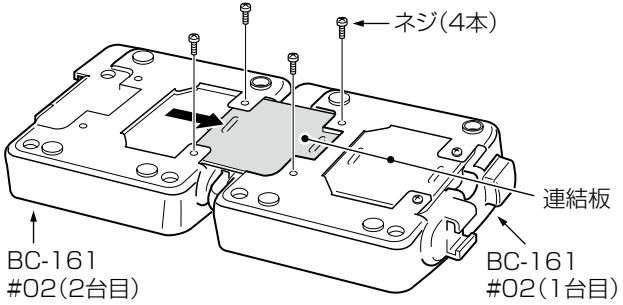
⚠警告

BC-161 #02を連結して充電できるのは、最大4台までです。

それ以上の台数を連結して充電しないでください。

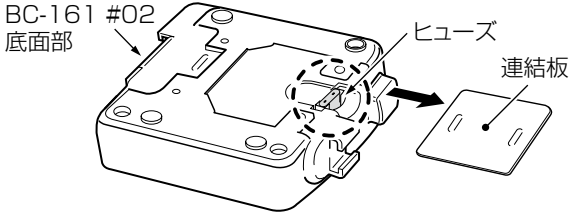
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

③ 底面部(2台目の充電器)にある連結板を固定するネジ(2本)を取りはずして、連結板を1台目の充電器のほうに移動させます。
取りはずしたネジ(2本)と充電器に付属のネジ(2本)で連結板を固定します。



■ BC-161 #02のヒューズ交換について

ヒューズが切れ、充電ランプが点灯しないときは、原因を取り除いてから、下記のヒューズ(4A/32V)を取り替えてください。



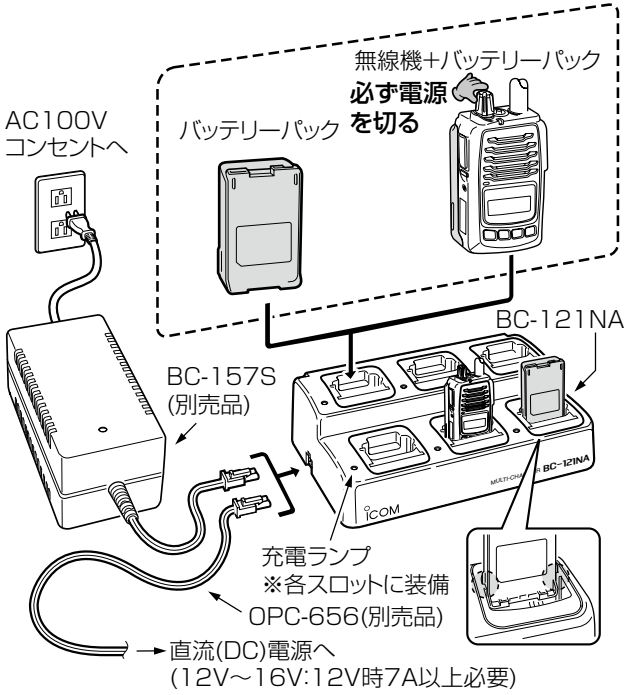
■ BC-121NA(6連急速充電器):充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※ 赤色で点滅する場合は、55ページをご覧ください。

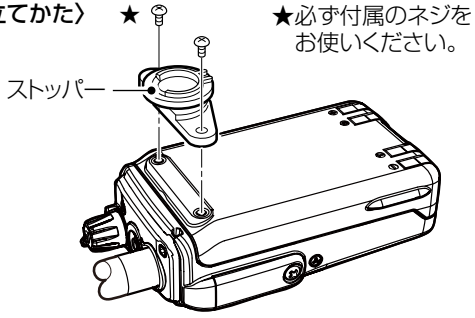
※ BC-121NAに付属の取扱説明書と併せてご覧ください。



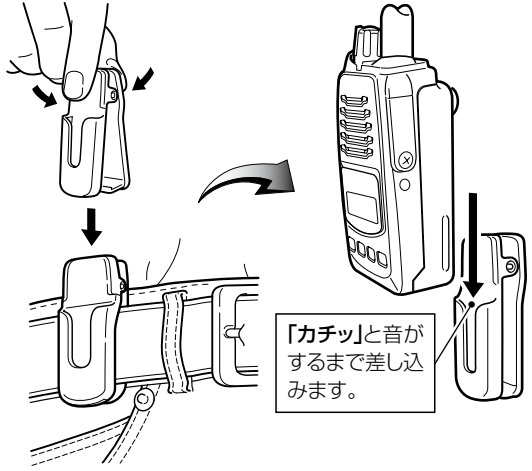
9 別売品とその使いかた

■ MB-86(回転式ベルトクリップ)

〈組み立てかた〉



〈無線機の取り付けかた〉

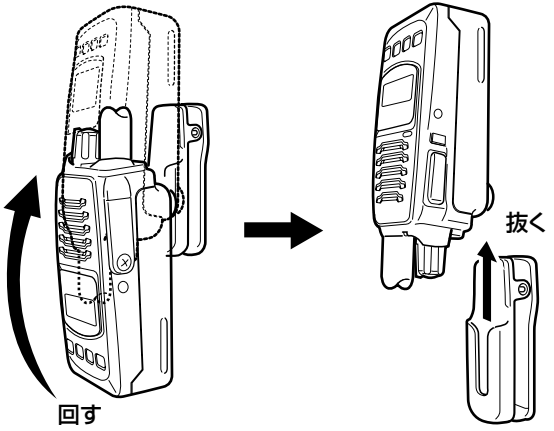


〈無線機のはずしかた〉

回転式ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転させてから引き抜きます。

【ストッパーの破損にご注意ください。】

落としたり、強い衝撃が加わったりして、ストッパー部分を破損すると、回転式ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。

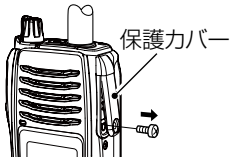


■ 別売品を接続するには

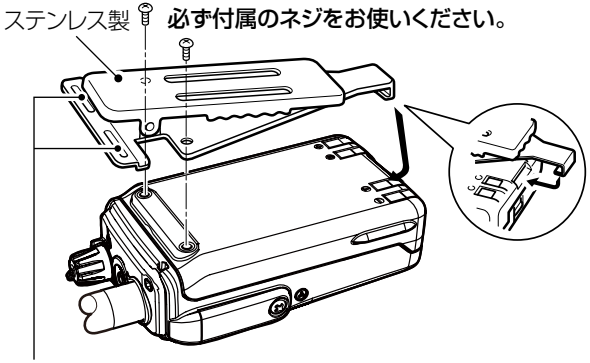
端子保護のため、別売品を接続しないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。

〈保護カバーのはずしかた〉

① 市販のドライバーを用意します。
② 無線機の側面側にある保護カバー固定用のネジ(1本)をはずします。
③ 保護カバーをはずします。



■ MB-97(ベルトクリップ)



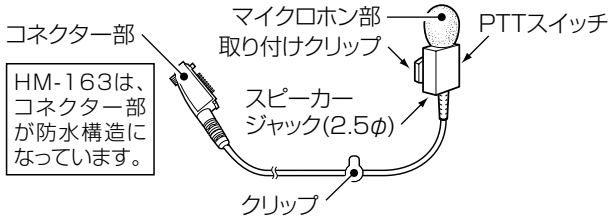
MB-57L(ショルダーストラップ)やMB-80のストラップ部を取り付けできます。

⚠注意

腰などに固定するときは、指を挟まないようご注意ください。

■ HM-109/HM-163(接話タイピン型マイクロホン)

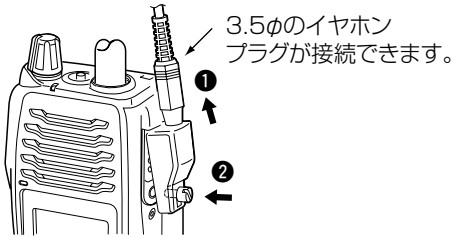
EH-12、EH-13、EH-14、EH-15、SP-28と組み合わせてご使用になれます。



■ AD-52(イヤホンジャックアダプター)

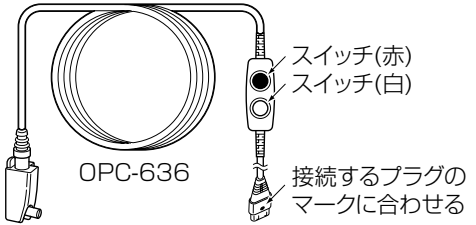
SP-16、SP-16B、SP-16BW、SP-29、SP-29Lと組み合わせてご使用になれます。

※ 装着しても、イヤホンプラグが接続されるまでは、無線機内蔵のスピーカーが機能します。



■ OPC-636/OPC-637
（マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル）

HS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aを接続してご使用になれます。



〈OPC-636の場合〉

赤色のスイッチは、ノンロック（未固定）式です。

※ 白色のスイッチが出ている（出）とき使用できます。

- ●▁▂▁ :押しているあいだだけ通話状態になる
- ●▁▁▂ :はなすと待ち受け状態になる

白色のスイッチは、ロック（固定）式です。

- ●▁▂▁ :押し込む（入）と通話状態になる
- ●▁▁▂ :出ている（出）と待ち受け状態になる

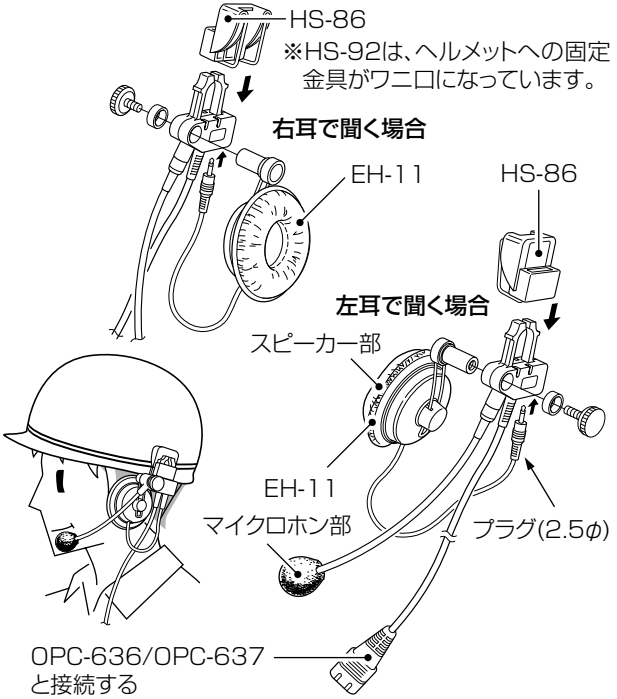
〈OPC-637の場合〉

黒色のスイッチは、ノンロック（未固定）式です。

- ●▁▂▁ :押しているあいだだけ通話状態になる
- ●▁▁▂ :はなすと待ち受け状態になる

■ HS-86/HS-92（ヘルメット取り付け型ヘッドセット）とEH-11（イヤーパッド型スピーカー）の組み立て

EH-11、EH-12、EH-13、EH-14、EH-15、およびOPC-636、OPC-637と組み合わせてご使用になれます。



■ 日常のお手入れと点検について

◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
また、バッテリーパック（BP-274）やアルカリ電池ケース（BP-221）を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。

◎無線機本体、充電器、バッテリーパック、アルカリ電池ケースの各端子（充電端子や電源端子）にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
各端子は、定期的に乾いたやわらかい布でふいてください。

◎使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示（☞P3）を確認してください。
また、アルカリ電池ケース、またはバッテリーパックなどがしっかりと装着されているか点検してください。

◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。

◎音量が最小に調整されていないか、**[電源/音量]**ツマミを回して、表示部の音量レベル（☞P8）を確認してください。

■ 初期状態に戻す（リセットする）には

下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

【操作のしかた】

①詳細セットモード（☞P35）に移行します。
- 「Pビープ OFF」を表示します。

② **[EDIT]**キーを1回押します。
- 「リセット NO」を表示します。

③ **[▲]**（アップ）キーを押して、「リセット YES」表示を選択します。

④ **[PTT（送信）]**スイッチを短く押します。
- 一時的に電源が切れ、初期状態になります。

【ご注意】

初期化操作の前に、バッテリーパックの残量表示が（十分）の状態で操作してください。

なお、設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

10 ご参考に

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(☞P56)までお問い合わせください。

現　象	原　因	処　置	参照
電源が入らない	端子の接触不良	バッテリーパック、またはアルカリ電池ケースの端子を清掃する なお、アルカリ電池ケースをご使用の場合は、電池の極性を間違えていないかを確認する	—
	バッテリーパック、または電池の消耗	バッテリーパックは充電し、電池は入れ替える	—
	バッテリーパックをご使用の場合、過放電保護回路が動作している	無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる	—
スピーカーやイヤホンから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する ※ 実際の音量を確認しながら調整する場合は、[MONI]スイッチを押しながら[電源/音量]ツマミを回して音量を確認する	P8
送信できない (ブップッ・・・が鳴る)	5分間の送信時間制限が過ぎたとき	1分以上待ってから、もう一度送信する	P11
	ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している	[送信/受信]ランプ(緑色)が消灯してから送信する	P11
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P9
	ユーザーコードを設定していない	相手と同じユーザーコードを設定する	P12
	相手が秘話機能を使用していない、または自分と秘話キーの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P16
	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	P25
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P11
	相手局が不在、または電源を切っている	自局、または相手局の状態を確認する	—
通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の操作ができない	呼出用チャンネル(呼出CH)を設定している	通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に変更する	P9
ボタンやキーを押すと、「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P27

現　象	原　因	処　置	参照
[モニタ]スイッチを長く押しても、「ザー」と音が出ない	電波を受信している	**[状態表示]**ランプが消灯していることを確認して、**[モニタ]**スイッチを長く押す	P8
	詳細セットモードで、[モニタ]スイッチの動作が変更されている	詳細セットモードで、[モニタ]スイッチの動作を「モニタ」に変更する	P41
充電が完了しない	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	P2、P48、P49
BC-208(付属品)で充電中に、充電ランプが橙色、または緑色で点滅、消灯している	バッテリーパックが正しく差し込まれていない	充電器に正しく差し込まれていることを確認する	P2
	0℃～40℃以外の環境で充電している	0℃～40℃の環境で充電する	P3
	各端子(充電端子や電源端子)の接触不良	ゴミやホコリが各端子に付着していないことを確認する	
BC-161 #02/BC-121NA(別売品)で充電中に、充電器のランプが赤色で点滅する	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	P48、P49

※ 上記の処置で変化のない場合は、バッテリーパックの故障または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 従来製品との相互使用について

従来製品と相互に使用するときは、下記の弊社製無線機をお使いください。

◎ IC-DPR1　◎ IC-DPR5

※ 本製品の緊急呼び出し機能(エマージェンシー)を使用する場合は、相互使用できません。

■ アフターサービスについて

「故障かな？と思ったら」(☞P54、P55)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- **保証書について**

  保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- **弊社製品のお問い合わせ先について**

  お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

  お問い合わせ先

  アイコム株式会社　サポートセンター

  0120-156-313(フリーダイヤル)

  ◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

  06-6792-4949(通話料がかかります)

  受付(平日 9:00～17:00)

  電子メール：support_center@icom.co.jp

  アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ をご覧ください。

ICOM

簡単ご利用ガイド

IC-DPR6

このガイドは、本製品をはじめてお使いになるかたの手元に登録状が届いたあと、すぐに通話を開始するための操作手順を説明しています。
※ 破線に沿って切り取り、折り畳んでいただくことにより、携帯できる大きさになります。

切り取り線

1. 電源を入れ、音量を調整する(☞P8)

❶[電源/音量]ツマミを時計方向に回します。

❷[モニタ]スイッチを押しながら、聞きやすい音量に調整します。

- 表示部に音量を表示します。
（表示例：音量 10）

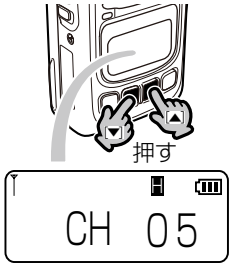
2. 通話チャンネルを合わせる(☞P9)

【通話チャンネルが決まっている場合】

[▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲：01～14、16～30

※ 相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

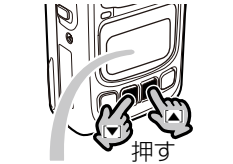


通話チャンネル表示
（表示例：5チャンネル）

2. 通話チャンネルを合わせる(つづき)

【通話チャンネルが決まっていない場合】

[▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを繰り返し押して、「呼出CH」(呼出用チャンネル：CH15)に合わせます。



呼出用チャンネル表示

〈呼出用チャンネルについて〉

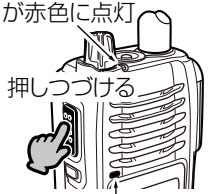
このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、ユーザーコードや秘話機能を使用できません。

「呼出CH」で呼び出し後、通話をつづける場合は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話してください。

3. [PTT(送信)]スイッチを押す(☞P9)

[PTT(送信)]スイッチを押しつづけると、ビープ音が**「ピッ」**と鳴りますので、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。



4. 相手の音声を受信する(☞P10)

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。

5. 通話をつづける(☞P10)

【通話チャンネルが決まっている場合】

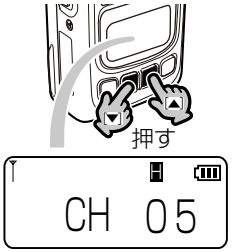
送信と受信は交互に繰り返して通話をつづけます。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

❶ 空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)を通話相手に伝えて、**[PTT(送信)]**スイッチをはなします。

❷ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、相手に伝えた通話チャンネル(例:CH 05)に合わせます。

❸ 送信と受信を交互に繰り返して通話をつづけます。



◆ 通話チャンネルに設定できる便利な機能

◎ 通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)には、ユーザーコード★、および秘話キー★を設定できます。

★同じ設定の相手とだけ通話できます。

◎ プライベートチャンネル機能(☞P30)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の切り替えに便利です。

◎ プライベートチャンネルスキャン機能(☞P30)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の通信を交互に受信(監視)できます。

◆ ユーザーコード(UC)について(☞P12)

同じユーザーコードを設定する相手とだけ通話できます。

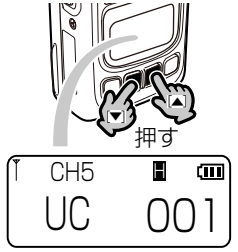
❶ 相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に設定します。

❷ **[FUNC]**キーを繰り返し短く押して、「UC OFF」表示を選択します。

❸ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

※ **[EDIT]**キーを短く繰り返し押すと、編集できる桁が点滅します。

[FUNC]キーを押すと、点灯に変わり、確定します。



◆ 秘話機能について(☞P16)

同じ秘話キーを設定する相手とだけ通話できます。

❶ 相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に設定します。

❷ **[FUNC]**キーを繰り返し短く押して、「秘話 OFF」表示を選択します。

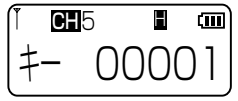
❸ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを短く押して、「秘話 ON」表示に切り替えます。

❹ **[EDIT]**キーを短く1回押します。

※短く2回押したときは、編集できる桁が点滅します。

❺ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じ秘話キー(5桁)を設定します。

❻ **[FUNC]**キーを押すと、確定します。



■ 無線機本体

- **送信周波数範囲:**351.20000～351.38125MHz
- **受信周波数範囲:**351.16875～351.38125MHz
- **チャンネル数:**30チャンネル(送信)
  30＋5チャンネル★1.(受信)
  ★1.上空用チャンネル(S1～S5)
- **電波型式:**F1E/F1D/F1F
- **変調方式:**4値FSK
- **使用温度範囲:**－20℃～＋60℃
- **電源電圧:**7.4V(BP-274)
- **消費電流:**2.0A以下(送信時:5W)
  1.0A以下(送信時:1W)
  400mA以下★2.(受信時)
  ★2.内部スピーカー:16Ω
  350mA以下★3.(受信時)
  ★3.外部スピーカー:8Ω
  90mA以下(待ち受け時)
  40mA以下(パワーセーブ時)
- **送信出力:**5W/1W(偏差:+20%、－50%)
- **低周波出力:**500mW以上(8Ω、10%歪時)
- **接地方式:**マイナス接地
- **アンテナインピーダンス:**50Ω(不平衡)
- **受信方式:**ダブルスーパーヘテロダイン方式
- **受信感度:**－5dBuVemf以下★4.
  ★4.BER=1×10^{-2} スタティック時
  0dBuVemf以下★5.
  ★5.BER=3×10^{-2} フェージング時
- **外形寸法:**56(W)×97.5(H)×29.5(D)mm★6.
  ★6.突起物を除く、BP-274装着時
- **重量:**約244ｇ(アンテナ、BP-274装着時)

※定格･仕様･外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

■ BC-208急速充電器(付属品)

- **定格入力電圧:**AC100V(50/60Hz) ※BC-123Sの入力電圧
- **使用温度範囲:**0～40℃
- **重量:**約147g
- **寸法:**86(W)×81(H)×78.5(D)mm

■ BC-161 #02卓上急速充電器(別売品)

- **定格入力電圧:**AC100V(50/60Hz) ※BC-165の入力電圧
- **使用温度範囲:**0～40℃
- **重量:**約225g
- **寸法:**122.5(W)×59.7(H)×95.0(D)mm

※BC-121NA(6連急速充電器:別売品)については、BC-121NAに付属の取扱説明書をご覧ください。

さくいん

数字

3F …… 36
5V …… 38
30F …… 36

A

All …… 5
ALL …… 43

C

CH15 …… i、9、21
CH共 …… 37、38
CH毎 …… 37、38
CLR …… 40
CON …… 36

E

EDIT …… 6
EXVC …… 38

F

FUNC …… 7

I

IP67 …… ii

K

KYLK …… 43

L

LCD …… 44

M

MELO …… 36
MIN …… 36

P

PIー …… 36
PPP …… 36
PTT …… 9
PvCH …… 41
PWSV …… 43
Pビープ …… 36

S

Scn …… 41
SkyR …… 44
S1～S5 …… i

T

TXBP …… 37

U

UC …… 14

V

VOL …… 43

さくいん

あ

相手局番号表示…… 39
アンテナ…… 1、47

う

運転…… v

え

エマージェンシー…… 28、40

お

音声案内…… ii、8、44
音量調整…… 8

か

解除…… 43
外部電源制御…… 38
干渉…… 11
感度…… 37

き

キーロック…… 54
キャリアセンス…… 11
緊急呼び出し…… 28、40

く

グリスト…… 23
グループ番号表示…… 39
グループ呼び出し…… 21

こ

故障…… 56
個別…… 38
個別呼び出し…… 21
混信…… 11
コントラスト…… 44

さ

再開…… 43
残量表示…… 3

し

自局…… 38
自局番号…… 22、24
シナイ…… 42
充電…… 2、3、48、49
充電時間…… 4
修理…… 56
終話…… 25
受信…… 10
受信専用…… 5
受信電波強度通知…… 32
受通…… 44
仕様…… 59
上空用チャンネル…… i
詳細セットモード…… 35
使用時間…… 4
初期状態に戻す(リセットする)には …… 53

さくいん

す

スキャン再開時間…… 42
スキャン停止時間…… 42

せ

セットモード…… 35
全局呼び出し…… 21
全設定初期化…… 45
全設定初期化(リセット)…… 45

そ

送信…… 9
送信時間制限装置…… 11
送信出力…… 31
送信モニター…… 37
即時…… 42

ち

着信履歴機能…… 33
着歴…… 40
注意事項…… x

つ

通話後スキャン動作…… 43
通話チャンネル…… 9、13、17、24
通話範囲…… 11

て

電波法…… iii
電波利用料…… iii

と

盗聴…… 16

の

納入告知書…… iii
納付…… iii

は

パワーセーブ機能…… 11

ひ

表示部…… 5
秘話…… 37
秘話キー…… 19
秘話機能…… 18

ふ

付属品…… ii
プライベートチャンネル…… 41
プライベートチャンネル機能…… 30
プライベートチャンネルスキャン機能…… 30

へ

別売品…… 46

ほ

防塵…… iii
防水性能…… iii
ポケットビープ機能…… 32
保持…… 42
保証…… 56

ま

マイクG…… 37
マイクゲイン…… 37

め

メロディー…… ii、32、37
免許…… iii
メンバー指定…… 23、39

も

モニタ…… 41
モニター機能…… 27

ゆ

ユーザーコード…… 14

よ

呼出…… 9、21
呼出用チャンネル…… i

ら

ランプ…… 6

り

陸上用チャンネル…… i
リセット…… 45、53
履歴…… 40

ろ

ロック機能…… 27

わ

話後…… 43
話前…… 40

高品質がテーマです。

A-7018D-1J
Printed in Japan
© 2012 Icom Inc.
この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32